



社会福祉法人^{恩賜財団} 済生会

済生会熊本福祉センター

年報

Annual Report

2024

理 念

一人ひとりを尊重し、
共に生きる社会の実現をめざします。

基本方針

1. 利用者主体の福祉を実践します。

利用者の自己実践を図り、一人ひとりを尊重した利用者主体の福祉を実践します。

2. ライフステージに応じた自立を支援します。

保育、療育、就労・生活支援を通じ、一人ひとりのライフステージに応じた自立を支援します。

3. 地域社会とつながり共に生きる未来を目指します。

多機能センターとしての専門性と施設機能を活かし、地域における共生社会の実現を目指します。

2024年度 済生会熊本福祉センター年報発刊にあたり（20周年記念号）



理念

「一人ひとりを尊重し、共に生きる社会の実現をめざします。」

基本方針

1. 利用者主体の福祉を実践します。
2. ライフステージに応じた自立を支援します。
3. 地域社会とつながり共に生きる未来を目指します。

「医療・保健・福祉の三本柱で、社会福祉法人にふさわしい仕事が出来ようになった。地域の皆さんのお役に立てるよう精進してまいります。」20年前の2004年に経営難となった前法人の六つの事業を引き継いだ際のマスコミのインタビューに応えた須古博信熊本県済生会支部業務担当理事（元済生会熊本病院院長）の言葉です。

社会福祉法人恩賜財団済生会は、明治44年明治天皇の済生勅語により「施業救療」の精神で、無告の民を救うべく設立されました。爾来、100年以上にわたり全国40支部で保健、医療、福祉を展開してまいりました。当時、熊本県支部には済生会熊本病院及び2003年に国立三角病院を国から譲受された済生会みすみ病院の二病院のみを運営しておりました。医療は超急性期（熊本病院）から地域医療（みすみ病院）まで担っており、地域住民に認知、支持されておりましたし、保健は現在年間35,000名の人間ドック及び健診を実施している済生会熊本病院予防医療センターを既に有しておりました。そして念願の福祉事業が2004年に始まったのです。その際の須古支部業務担当理事の高揚感に包まれたインタビューでした。

しかしながら福祉事業はそう簡単なものではありませんでした。この20年の間に授産事業としての葛切り・春雨工場の取引先の経営難による閉鎖、それを契機としたクリーニング新規事業への参入、野菜カット工場への転換、熊本病院のカフェ・清掃事業の受託、パン工場の設置、通勤寮及び入所施設のグループホーム転換、転換した野菜カット工場の採算割れによる閉鎖、その閉鎖を受けて食品加工事業へ参入など苦難の連続でした。さらにこれに加え2012年度の制度改定で生活介護事業のスタート、授産事業から新たな制度である就労継続支援A型・B型事業への転換など紆余曲折しながら現在の形態になっているところです。以上のような先達のご苦労と利用者、利用者ご家族をはじめ関係先の支援があつての今の当センターがあることを改めて認識するとともに関係者に感謝の意を込めてさまざまな20周年記念事業を展開した年度となりました。

済生会フェアと称して本部・支部の支援を受けながら実施した20周年記念事業を紹介して20周年記念年報発刊のご挨拶と致します。

2024年 4月 1日 ウイズ新食品加工棟本格オープン（引き渡しは2024年3月20日）

2024年11月 9日 済生会フェア20周年記念福祉センター秋祭りinうちだまち開催（約350人来場）

2024年11月16日 しらふじ子ども園主催

20周年記念講演会「乳幼児期の口腔養成」開催（於 熊本病院ホール 約150名）

2025年 1月18日 開設20周年記念式典・祝賀会開催（於 ホテル日航熊本 会長、理事長他100名）

2025年 1月18日 20周年記念グッズ配布開始（3色ボールペン、20周年記念特製クリアファイル）

2025年 1月18日 20周年記念誌配布開始

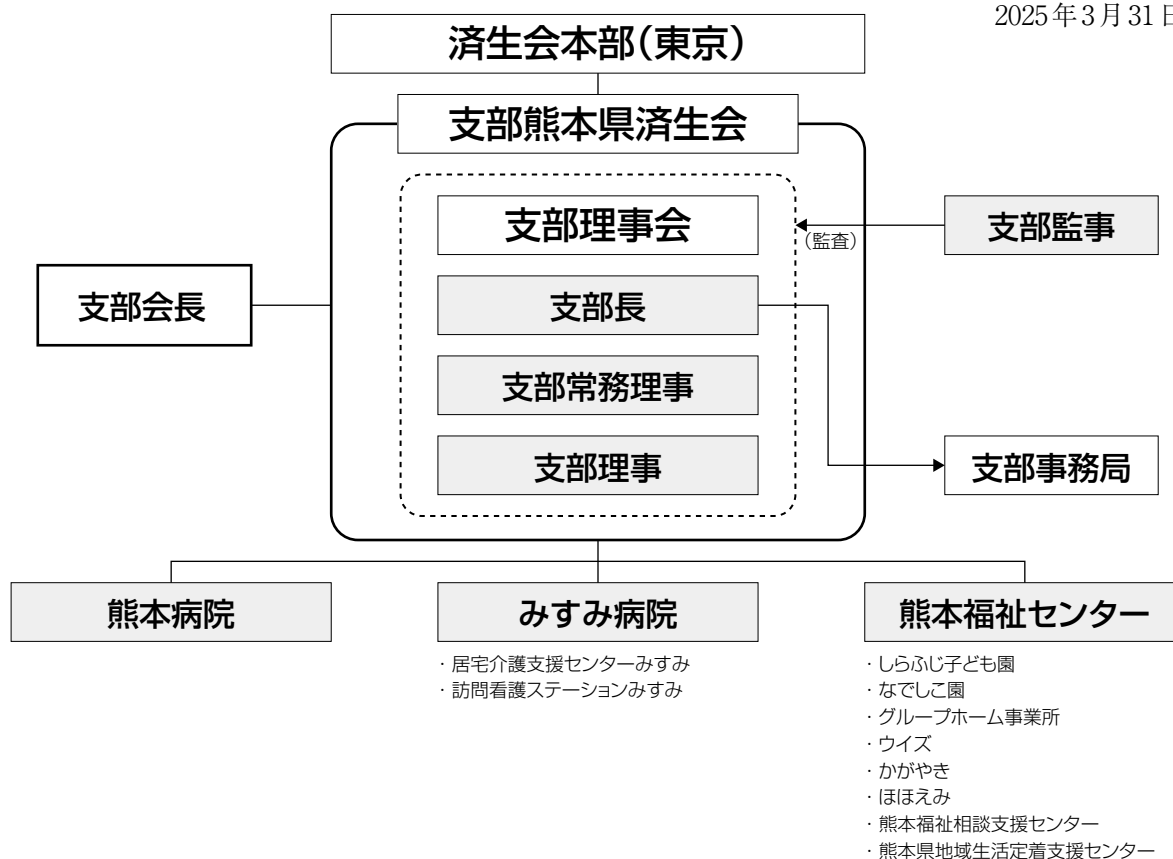
2025年 1月18日 20周年記念動画配信開始

2025年12月16日 ウイズクラウドファンディング目標達成（目標の500万円突破）

2025年 3月20日 ウイズ新クリーニング工場オープン

熊本県済生会 組織図

2025年3月31日現在



熊本県済生会 役員名簿

1. 理事

(2025年3月31日現在)

氏 名	所 属	役 職
副島 秀久	熊本県済生会／済生会熊本病院	支部長／名誉院長
中尾 浩一	熊本県済生会／済生会熊本病院	常務理事／院長
河村 邦比兒	熊本日新聞社	代表取締役会長
清田 武俊	医療法人社団 清心会 春日クリニック	理事長
小林 佳之	社会福祉法人恵春会	理事長
重松 節美	熊本県看護連盟	顧問
竹屋 元裕	熊本保健科学大学	学長
吉岡 正一	済生会みすみ病院	院長
宮川 栄助	済生会熊本福祉センター	所長

2. 監事

氏 名	所 属	役 職
浅枝 秀隆	浅枝公認会計士事務所	所長
池上 道夫	池上会計事務所	所長
隈部 幸一	税理士法人クロジカ	代表社員

(50音順・敬称略)

熊本県済生会 2024年度行事

年 月 日	行 事
2024年4月8日	支部監事業務監査（各施設） 2023年度業務執行状況について
2024年4月26日	支部監事会計監査 2023年度財務状況について
2024年5月15日	第68回支部施設長会議 2023年度事業報告、決算報告について 他
2024年6月3日	第98回熊本県済生会理事会 2023年度事業報告、決算報告について 他
2024年7月16日	熊本県済生会OB会会計監査 2023年度決算監査、2024年度予算（案）
2024年8月6日	第69回支部施設長会議 定款変更認可申請について、諸規則等の改定について 他
2024年8月20日	第99回熊本県済生会理事会 定款変更認可申請について、諸規則等の改定について 他
2024年9月14日	第28回熊本県済生会OB会（ザ・ニューホテル熊本）
2024年11月19日	第70回支部施設長会議 2024年度上半期進捗状況報告について 他
2024年12月3日	第100回熊本県済生会理事会 2024年度上半期進捗状況報告について 他
2024年12月5日	支部監事上半期会計監査 2024年度上半期財務状況について
2025年1月16日	第71回支部施設長会議 2025年度事業計画、予算について 他
2025年1月30日	第101回熊本県済生会理事会 2025年度事業計画、予算について 他

1. 理念、基本方針	1
2. 所長挨拶	2
3. 熊本県済生会 組織図、役員名簿	3
4. 熊本県済生会 2024年度行事	4
5. 目次	5
6. 概要・沿革	6-8
7. 事業案内	9
8. 職員数・資産概要・協力医療機関・嘱託医・産業医・第三者委員	10
9. 2024年度事業報告	11-12
10. 各種統計	13-14
11. 各事業所活動報告	15-37
済生会かがやき	(15-17)
済生会ほほえみ	(18-20)
済生会ウイズ	(21-23)
済生会グループホーム事業所	(24-27)
済生会なでしこ園	(28-30)
済生会しらふじ子ども園	(31-33)
済生会熊本福祉相談支援センター	(34-35)
熊本県地域生活定着支援センター	(36-37)

概要

法人	東京都港区三田一丁目4番28号 社会福祉法人 ^{恩賜} 済生会 総裁 秋篠宮皇嗣殿下 会長 潮谷 義子 理事長 炭谷 茂
熊本県支部	熊本県熊本市南区近見五丁目3番1号 社会福祉法人 ^{恩賜} 済生会支部熊本県済生会 支部長 副島 秀久
熊本県関連施設	熊本県熊本市南区近見五丁目3番1号 済生会熊本病院 院長 中尾 浩一
	熊本県宇城市三角町波多775-1番地 済生会みすみ病院 院長 吉岡 正一
熊本福祉センター	熊本県熊本市南区内田町3560番地1 社会福祉法人 ^{恩賜} 済生会 済生会熊本福祉センター 所長 宮川 栄助 開所日 2004年4月1日

2025年3月31日現在

概要・沿革

2004年4月	社会福祉法人仁愛園より事業を引き継ぎ、済生会熊本福祉センター開設（6施設） ①セルプほほえみ ②セルプかがやき ③ウイズ ④通勤寮こだま ⑤しらふじ保育園 ⑥なでしこ園 （初代）須古修二所長、稲田俊宜事務長 就任
2005年6、7月	セルプほほえみでパン工場の授産事業開始 済生会熊本病院内にて院内清掃・喫茶を設置し授産事業開始
2005年12月	ワークステーションウイズでクリーニング工場稼働
2007年9月	熊本病院外来がん治療センター1階「喫茶 POPULA」オープン
2007年10月	熊本病院管理棟1階「ベーカーリーふわり」オープン セルプほほえみ1階大規模改修工事（春雨工場→地域交流ホール等へ、事務所2階→1階へ）
2009年4月	（第2代）長濱朋二所長 就任
2009年8月	ワークステーションウイズ一部改修工事（葛きり工場→野菜カット工場へ）
2010年3月	知的障害者福祉工場：ワークステーションウイズ ↓【新体系移行】 多機能型事業所：済生会ウイズ（就労継続支援A型・B型）
2010年4月	さいせい並建Ⅰ番館竣工 （第3代）清水谷憲二所長 就任
2011年3月	しらふじ保育園 新園舎完成（定員110名→150名）
2011年4月	さいせい並建Ⅱ番館竣工
2011年8月	（第2代）岡本博之事務長 就任
2012年2月	知的障害者通勤寮こだま 障害者自立支援法により廃止 こだま（通勤寮）、セルプかがやき（入所施設）をグループホーム・ケアホームへ改修工事完了 こだま（通勤寮）→うちだ2番館（GH/CH）、セルプかがやき（入所施設）→うちだ1番館（GH/CH）、かがやき就労移行支援
2012年3月	知的障害者通所授産施設：セルプほほえみ 知的障害者入所授産施設：セルプかがやき ↓【新体系移行】 多機能型事業所：済生会ほほえみ（生活介護、就労継続支援B型） 多機能型事業所：済生会かがやき（就労移行支援、就労継続支援A型・B型）
2012年4月	さいせい並建Ⅲ番館、Ⅳ番館竣工
2012年10月	なでしこ園 児童福祉法改正により福祉型児童発達支援センター済生会なでしこ園へ
2013年10月	並建東2番館 運用開始
2014年4月	熊本県地域生活定着支援センターを熊本県委託事業として運営開始 （第4代）道端由美子所長 就任
2015年10月	済生会なでしこ園 新園舎完成
2016年4月	済生会ウイズで給食事業開始（就労継続支援A型） 4月14日、16日 熊本地震
2016年6月	熊本県地域生活定着支援センター事務所を水前寺から内田町へ移転
2018年3月	さいせい並建Ⅴ番館竣工

2018年4月	済生会しらふじ保育園 幼保連携型認定こども園済生会しらふじ子ども園へ移行 熊本市委託事業 熊本市障がい者相談支援センターさいせい開所 (第3代) 木下裕幸事務長 就任
2019年4月	済生会なでしこ園「熊本市児童発達支援センター機能強化事業」開始 熊本県地域生活定着支援センター「犯罪をした高齢、又は障がいのある者等の再犯防止に関する相談業務」 国や市のモデル事業を受託
2019年6月	第1回済生会熊本福祉センター講演会開催（熊本大学名誉教授 三池輝久先生） 内田施設の照明 LED に交換
2019年7月	済生会グループホーム事業所に非常用発電装置設置
2020年11月	済生会グループホーム事業所、済生会かがやき就労移行での医療観察制度に基づく支援に対し熊本保護観察所から感謝状授与
2021年4月	チューター制度導入 (第5代) 宮川栄助所長 就任
2021年10月	木下裕幸所長補佐 就任、(第4代) 小西忠光事務長 就任
2022年4月	人事制度改革第1弾運用開始 組織体制再編、キャリアパス改定、役割等級制度導入、年間休日数変更 済生会しらふじ子ども園 業務支援ツール「コドモン」運用開始
2022年8月	済生会なでしこ園 障がいの疑いのある児童に向けた支援サービス「Ekubo」開始 熊本県地域生活定着支援センター「矯正施設等退所者就労支援事業業務」を熊本県より新規受託
2022年11月	福祉センターニュース Smiling Workers 発行開始
2023年1月	訓練棟、ヘルシー館解体工事
2023年4月	人事制度改革第2弾運用開始 人事考課表改定、昇級の調整 熊本福祉センター職員間の情報伝達ツール「LINE WORKS」運用開始
2023年9月	かがやき・ほほえみ・ウイズ・グループホーム事業所・相談支援センター 障害福祉事業システム「ほのぼのmore」運用開始
2024年3月	済生会ウイズ 食品加工棟 新棟完成 済生会なでしこ園 児童発達支援システム「HUG」運用開始 熊本市委託事業 熊本市障がい者相談支援センターさいせい閉所
2024年4月	済生会熊本福祉センター開設 20 周年 人事制度改革第3弾運用開始 定年の延長、再雇用年齢の変更等 済生会熊本福祉相談支援センター事務所を春日から内田町へ移転
2024年7月	済生会ウイズ クリーニング棟改修 1 期工事開始
2024年11月	済生会熊本福祉センター 20 周年記念講演会開催（生田歯科医院院長 藤原 康生先生）
2025年1月	済生会熊本福祉センター 20 周年記念式典及び祝賀会開催（ホテル日航熊本） 20 周年記念動画配信開始、20 周年記念誌・記念グッズ配布開始 済生会ウイズ クリーニング棟改修 2 期工事開始
2025年2月	済生会しらふじ子ども園 集金業務支援サービス「enpay（エンペイ）」運用開始
2025年3月	済生会ウイズ クリーニング棟竣工

事業案内

事業種別	施設名		定員
障害福祉サービス事業	済生会かがやき	就労継続支援 A 型	10 名
		就労継続支援 B 型	24 名
		就労移行支援 (2022年4月より休止)	6 名
		就労定着支援 (2022年4月より休止)	—
	済生会ほほえみ	生活介護	30 名
		就労継続支援 B 型	10 名
	済生会ウイズ	就労継続支援 A 型	25 名
		就労継続支援 B 型	32 名
	済生会グループホーム事業所	共同生活援助	90 名
		短期入所	5 名
障害児通所支援事業	済生会なでしこ園	児童発達支援事業	30 名
		保育所等訪問事業	—
熊本市児童発達支援センター機能強化事業			—
幼保連携型認定こども園	済生会しらふじ子ども園	1号認定15名 2、3号認定160名	175名
地域子育て支援拠点事業			—
一時預かり事業			—
特定相談支援事業 障害児相談支援事業 一般相談支援事業	済生会熊本福祉相談支援センター		—
地域生活定着促進事業	熊本県地域生活定着支援センター		—

2025年3月31日現在

職員数・資産概要・協力医療機関・嘱託医・産業医・第三者委員

【職員数】 合計 203名

かがやき	ほほえみ	ウイズ	グループホーム
管理者 1名 副管理者 1名 係長・サービス 管理責任者 1名 支援員 8名 作業指導員 13名 (24名)	管理者 1名 係長・サービス 管理責任者 1名 支援員 14名 看護師 1名 作業指導員 1名 (18名)	管理者 1名 副管理者 2名 係長・サービス 管理責任者 1名 主任 2名 支援員 10名 調理員 1名 作業指導員 13名 (30名)	管理者 1名 係長 1名 主任 2名 (1名兼) サービス管理 責任者 3名 支援員 7名 看護師 3名 支援員補助 2名 夜間専門員 4名 世話人 26名 事務員 1名 (49名)
なでしこ園	しらふじ子ども園	相談支援	定着支援
管理者 1名 係長・児童発達支援 管理責任者 1名 主任 2名 (2名兼) 機能強化員 1名 保育士 11名 児童指導員 3名 調理員 2名 (19名)	園長 1名 教頭 1名 主任 1名 (1名兼) 主幹保育教諭 2名 保育教諭 28名 准看護師 1名 栄養士・調理師 3名 保育補助 1名 調理補助 2名 労務員 1名 (41名)	管理者 1名 (兼) 相談支援専門員 5名 (6名)	管理者 1名 (兼) センター長 1名 相談員 6名 (8名)
			事務局
			事務顧問……………1名 総務室……………3名 経理室……………6名 環境室 1名 (1名兼) (10名)

【資 産 概 要】	内田施設 敷地面積 12,106.84㎡ 延床面積 7,114.06㎡ 白藤施設 敷地面積 3,884.17㎡ 延床面積 1,754.76㎡
【協力医療機関】 (順不同)	済生会熊本病院 (南区近見) ささ小児科 (南区白藤) 済生会みすみ病院 (宇城市三角町) 城南歯科医院 (南区近見) あきた病院 (南区会富町) 北野小児科 (南区近見) かやの歯科 (南区砂原町)
【嘱 託 医】	菅 守隆 (ほほえみ)、黒澤 茶茶 (しらふじ)、平田 恵 (なでしこ) 宮本 格尚 (なでしこ・しらふじ)
【産 業 医】	菅 守隆
【第三者委員】	吉村 正美 ・ 道端 由美子

2025年3月31日現在

2024年度事業報告

1. 2024年度総括

2024年度は、センター開設20周年にあたり、様々な20周年記念事業を展開した年度であった。センター運営においては、「Re-Start」をキーワードに、人事制度の刷新、働き方改革の推進、そして、未来に向けた大規模改修を実施した。

2. 2024年度活動報告

(1) 20周年記念事業に関すること

- ① 記念誌・記念動画を作成し、関係機関への配布やホームページへの公開を行った。また、記念グッズ（シール・ボールペン・クリアファイル）を作成し、ステークホルダーをはじめ、関係機関やセンターイベント来場者へ配布した。
- ② 記念秋祭りinうちだまち(2024年11月9日)を開催した。ステージイベント(地域団体の演舞や抽選会)や食バザー(当センター事業所出店とキッチンカー)を企画し、利用者家族、地元自治会や行政機関、障がい者サービス事業所、特別支援学校、地域住民等約350名の来場があった。
- ③ しらふじ子ども園の企画により記念講演会(2024年11月16日)を開催した。テーマは乳幼児期の口腔養成とし、ゼロ歳からの口腔養成の大切さを伝え子育てや子育て支援等に役立つ知識の提供を行った。保護者のみならず、他保育園、幼稚園の保育士を中心に136名の参加があった。
- ④ 記念式典(2025年1月18日)をホテル日航熊本にて開催した。会長、理事長、支部長をはじめとした本会関係者、また、熊本県、熊本市をはじめとした関連行政機関、関係先、地域の方々及び福祉センターOB等、約100名を招待した。
- ⑤ 20周年の節目を機に、理念と基本方針の見直しを実施した。幹部研修会においてレビューを実施し、現行理念の継続と基本方針の変更を実施した。

(2) センター運営に関すること

- ① 人事制度改革第3弾として、定年の延長(60歳→65歳)、再雇用年齢の変更(65歳→70歳)、昇級停止年齢の変更(55歳→60歳)を行った。
- ② 昨年度新築した食品加工棟において、ウイズ就労支援B型事業を再開した。新環境の中で、食品加工事業、クリーニング支援事業を再び展開し、特別支援学校からの見学や実習受入も増加した。
- ③ ウイズクリーニング工場の全面改修を実施した。2024年7月1日に着工し、2025年3月31日に計画通り竣工した。この改修により総面積は約1.5倍となり、処理能力も約2倍となった。環境面においては、下水道接続による河川放流を終了しエネルギー源を重油からLPガスに切り替え、本会が推進する省エネ方針に準拠した。また、リスク対策として井戸を増設し冗長性を担保した。資金面においては、クラウドファンディングに挑戦し目標額を大幅に上回る支援を得ることができた。
- ④ グループホーム用地として確保した土地について、新築する建物の仕様検討を開始し、開発申請手続きのプロセスを開始した。プロジェクトを発足した。

(3) 利用者数の状況

B型利用者、グループホーム利用者の獲得に苦戦し、該当する事業所においては、前年度を割る結果となった。

<延べ利用者（児）数の推移>

（単位：人）

事業所	定員	定員充足数（＊1）		利用者年間取扱延数（＊2）			
		2024年	2023年	2024年	2023年	前年差	増減率
かがやき	34	32	35	7,776	8,317	▲541	▲6.5%
ほほえみ	40	38	39	7,735	8,034	▲299	▲3.7%
ウイズ	57	54	51	13,117	12,403	714	5.8%
グループホーム	90	80	82	28,675	29,226	▲551	▲1.9%
なでしこ園	30	36	36	6,106	5,979	127	2.1%
しらふじ子ども園	175	180	183	40,062	40,716	▲654	▲1.6%
相談支援	－	－	－	1,278	1,170	108	9.2%
定着支援	－	－	－	1,459	1,744	▲285	▲16.3%
合 計	426	420	426	106,208	107,589	▲1,381	▲1.3%

＊1 定員充足数は2025年3月1日時点

＊2 取扱延数は本部事業報告数

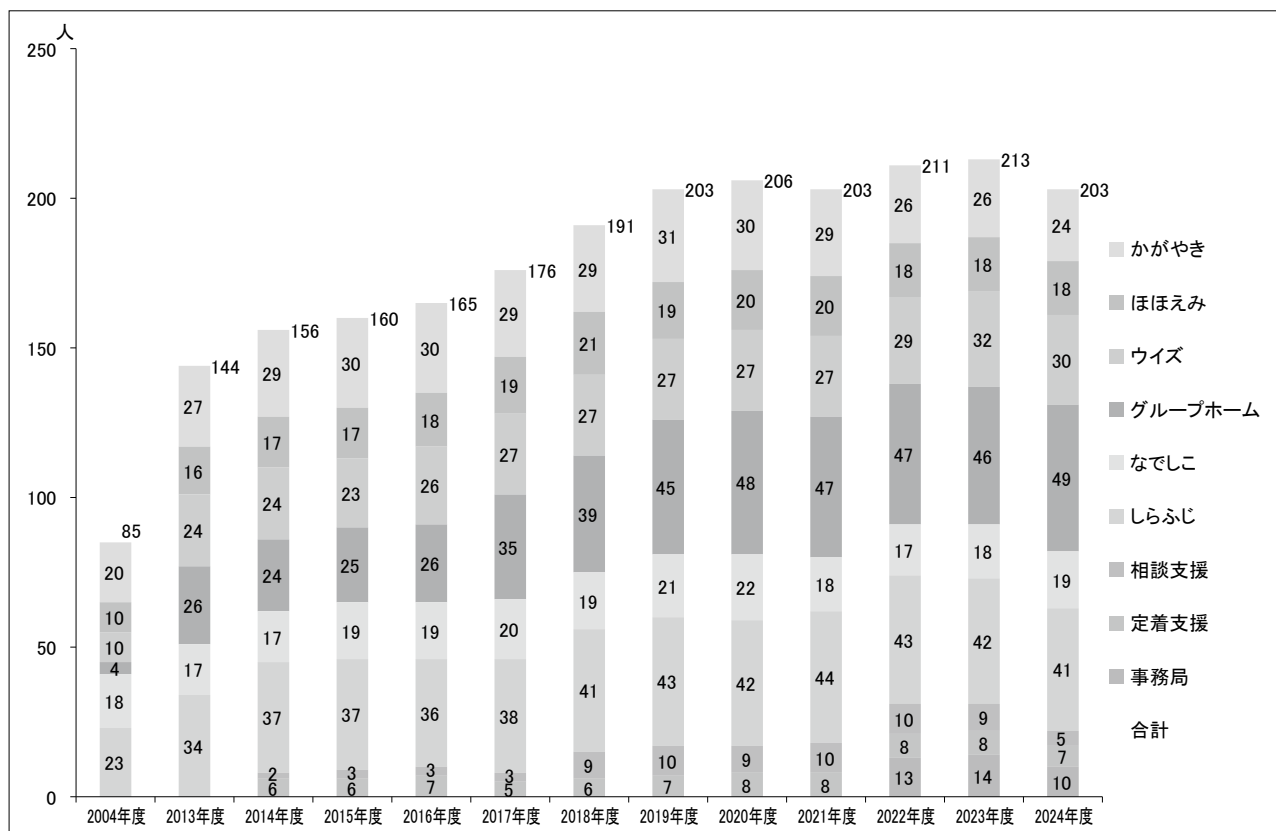
(4) 主要行事・取組み

		内 容
上半期	4月	新任式・入園式 相談支援センター移転 定着支援センター受託10周年
	6月	花の日訪問（しらふじ子ども園） アビリンピック熊本大会（かがやき）
	7月	就労体験会（ほほえみ） クリーニング棟改修1期工事開始（ウイズ）
	8月	七夕会（グループホーム） 就労体験会（ウイズ）
	10月	クラウドファンディング開始（ウイズ） オータムパーティー（なでしこ園）
	11月	20周年記念フェアinうちだまち、20周年記念講演会 幹部研修会 アビリンピック全国大会（かがやき）
下半期	1月	20周年記念式典 クリーニング棟改修2期工事開始
	2月	監査法人トーマツ会計監査
	3月	卒園式（なでしこ園、しらふじ子ども園） 永年勤続表彰伝達式 クリーニング棟竣工（ウイズ）

各種統計

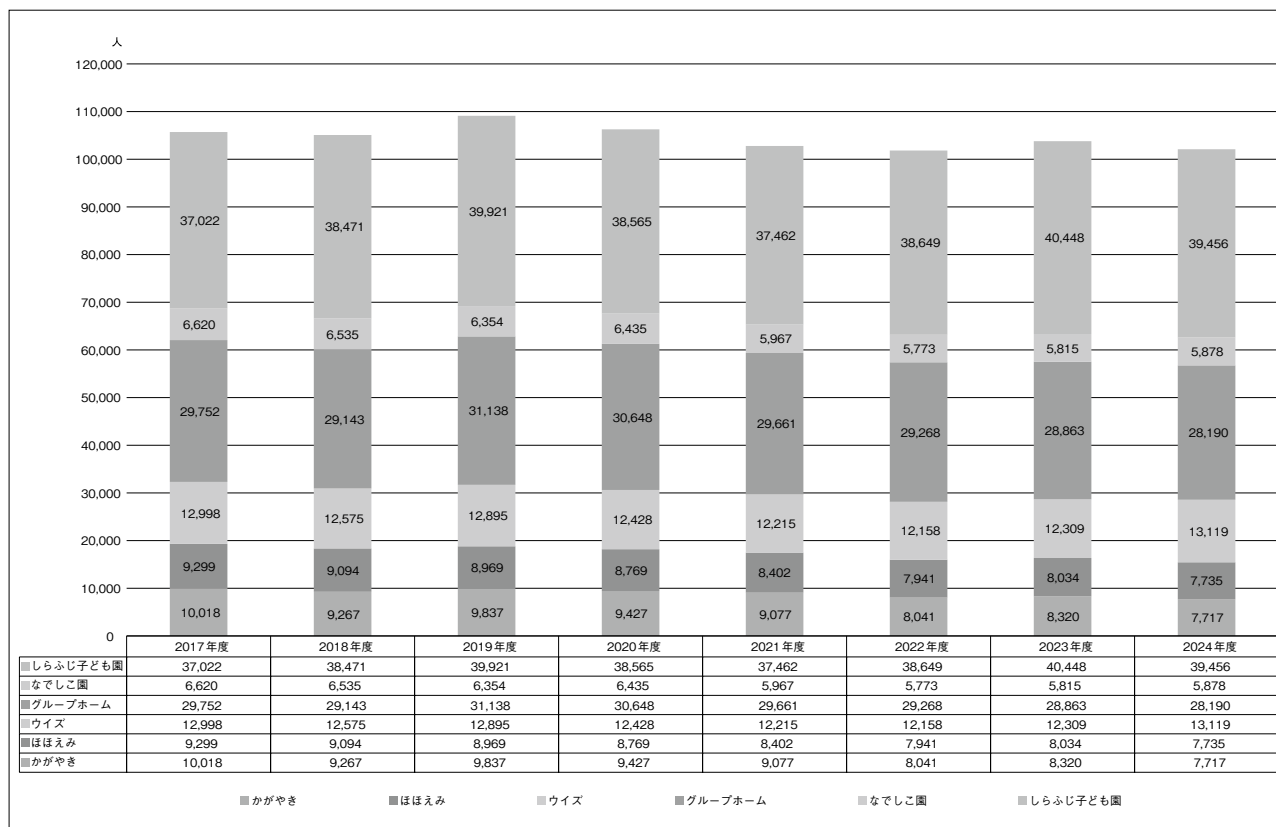
①職員数の推移

定義：各年度末3月時点の全職員数



②年間延べ利用者数

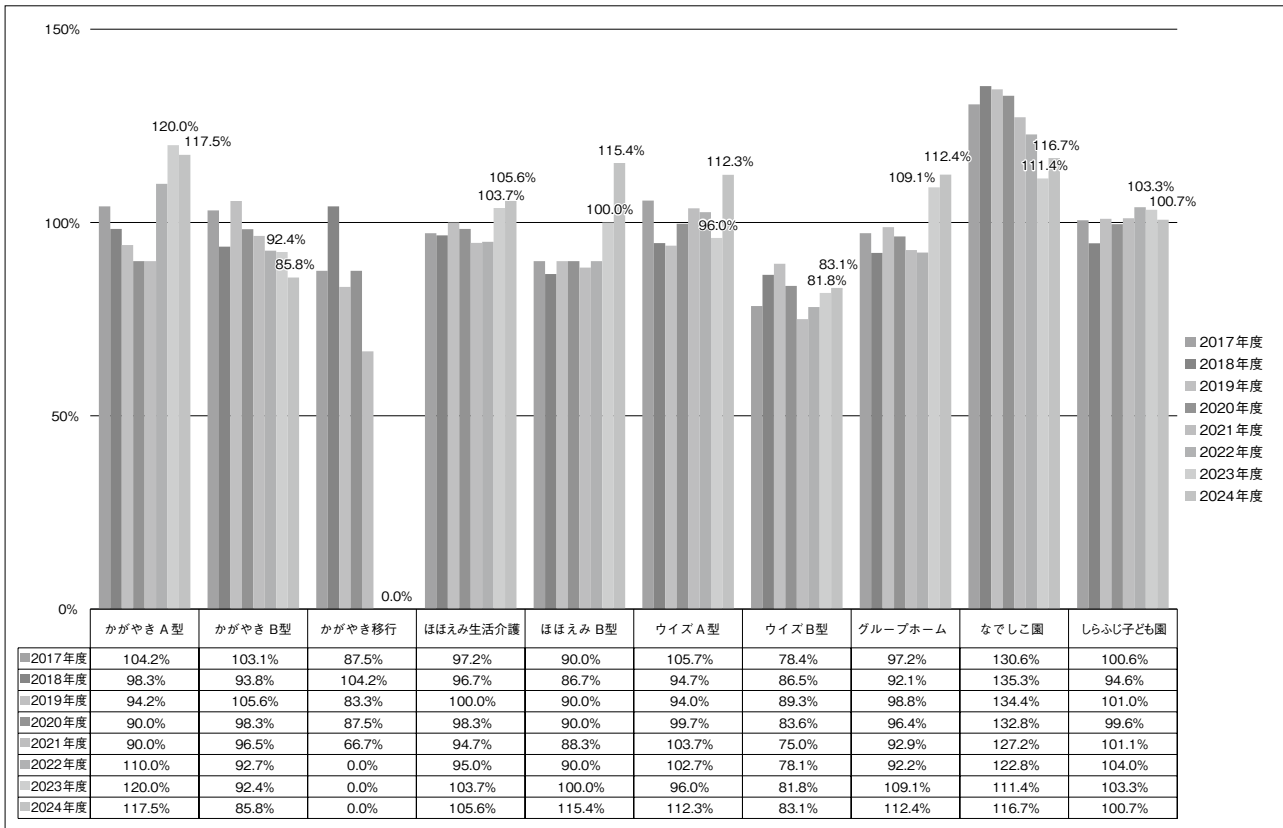
定義：各事業所の年間延べ利用者数



③定員充足率

定義：現員数／定員数×100

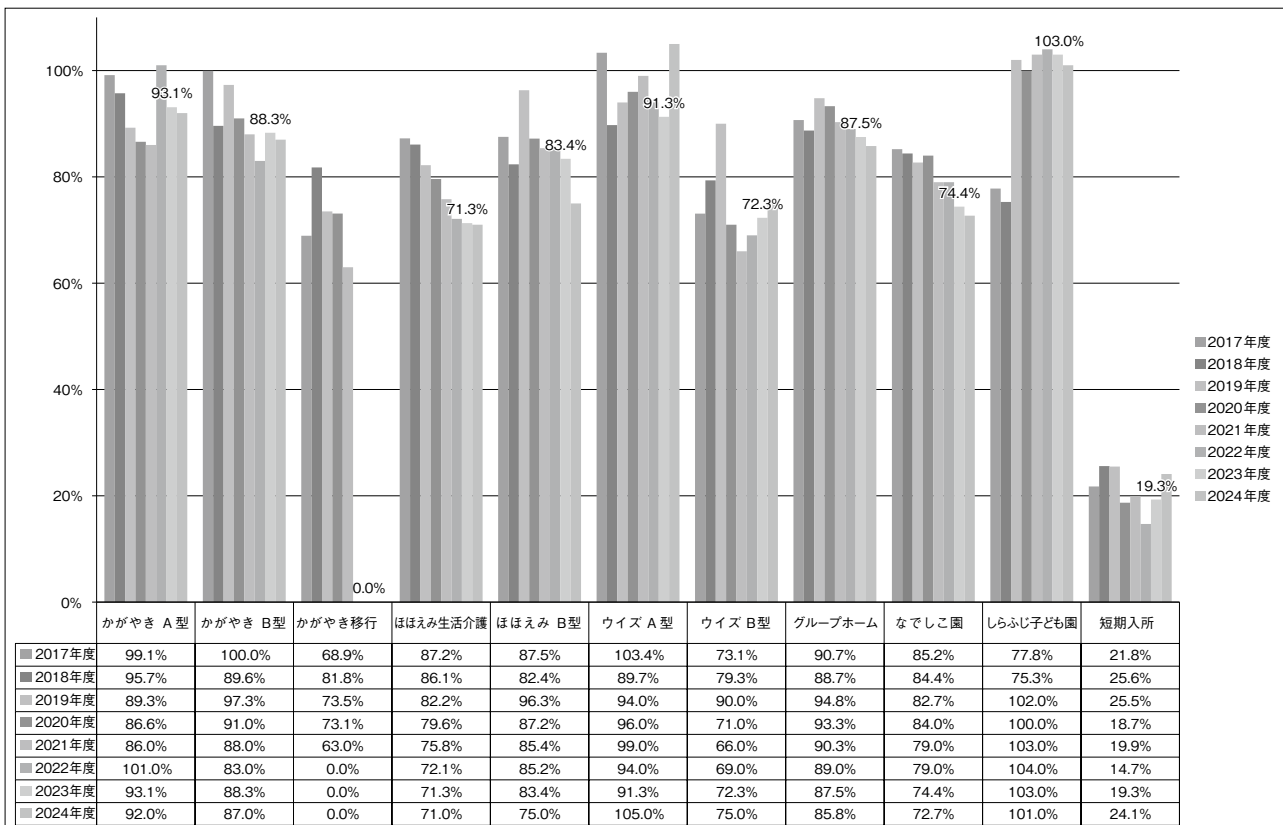
※毎月末日時点の数値の1年間合計



④利用率

定義：延べ利用者数／定員×開所日数

※毎月末日時点の数値の1年間合計



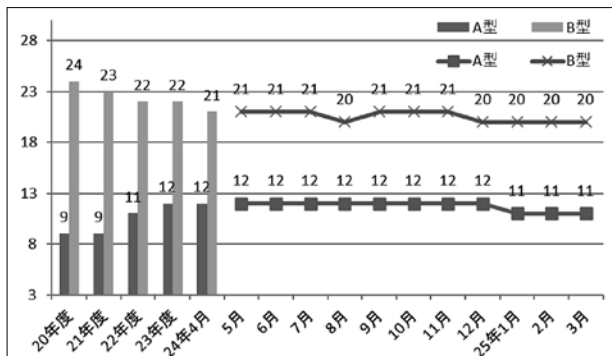
1. スタッフ構成 (2025年3月1日時点)

管理者 1名 副管理者 1名
 係長・サービス管理責任者 1名
 支援員 8名 作業指導員 13名

2. 2024年度の活動

(1) 利用者数

①就労継続支援事業A型・B型 利用者数の推移

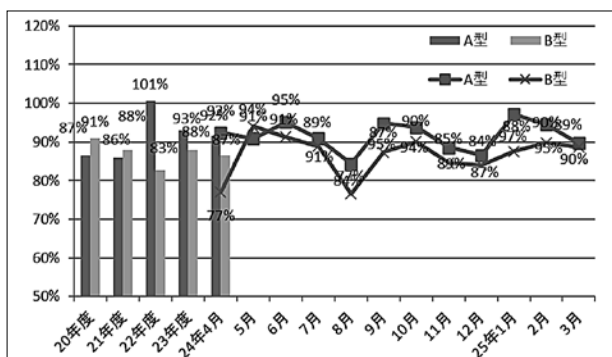


A型は、12名でスタートするも12月に1名の退所者があり、1月以降は11名の利用者に推移した。

B型については、2023年度3月に1名の退所者があり21名でスタートするが、介護施設への退所者が7月に1名、一般就労へ行く退所者が11月に1名と2名の減員となった。その間9月に1名の新規利用者を迎え、最終的には20名で推移した。

(2) 利用率

①就労継続支援事業A型・B型利用率(出勤数/稼働日)



A型は、2024年度も120%の定員数の充足度があつたにも関わらず、平均利用率は92%（2023年度93%）であつた。要因としてコロナ感染者や濃厚接触者等での休みが多く出てしまった事や活動への

参加率の低下、長期欠勤を経て利用者が1名退所してしまった事である。

B型については、平均利用率は87%（2023年度88%）であつた。B型は、退所者があつた事と、生活介護や介護施設等とB型の併用利用者が2023年度より増加した事、また活動への参加率が上がらなかった事も利用率の向上には繋がらなかった要因である。

(3) トピック

①職員の質の向上と利用者支援力向上

済生会かがやきでは、職員のスキルの向上を事業計画に入れており、県内外への研修を全職員に課すなどして、職員の多能化を進めることに加え研修内容は必ず会議でフィードバックさせ、全職員の支援力向上に努めた。

また、作業指導員1名を県内の研修に参加させ利用者支援への理解を深めてもらった。職員のスキルの向上は利用者の満足度へも繋がっていくため引き続き、職員の研修参加を意欲的に行い、職員一人ひとりの更なる能力向上を図りたい。

②社会適応プログラム

就労継続支援A型の従業員に毎月、定期的に社会適応プログラムを実施している。内容としてはビジネスマナーやPC操作・資材管理・機材メンテナンス等である。そして年に1回～2回は同じ病院内で清掃をされている企業に協力して頂き、A型従業員向けの勉強会を開催した。普段、自分達が行っている仕事ができているのか確認できるうえ、勉強会を開催することで従業員の意欲向上にも繋がり、技術力向上にもなっている。今後も企業と連携し、A型従業員の一般就労に向けた支援を行っていききたい。

3. 苦情・要望

分類	内容	件数
ア	施設等サービスの改善	1
イ	排泄介助	0
ウ	食事	0
エ	職員の言動・態度	1
オ	入浴	0
カ	金銭・私物管理	0
キ	事件・事故	0
ク	契約締結	0
ケ	利用料	0
コ	利用者間の人間関係	3
サ	人権問題	0
シ	その他	1
	合計	6

2024年度の（ア）「施設サービスの改善」についての1件は、送迎サービスについての1件で乗降場所の変更であった。マンションの玄関前への変更であったが、管理人の方の許可も得たことでスムーズに変更ができた。

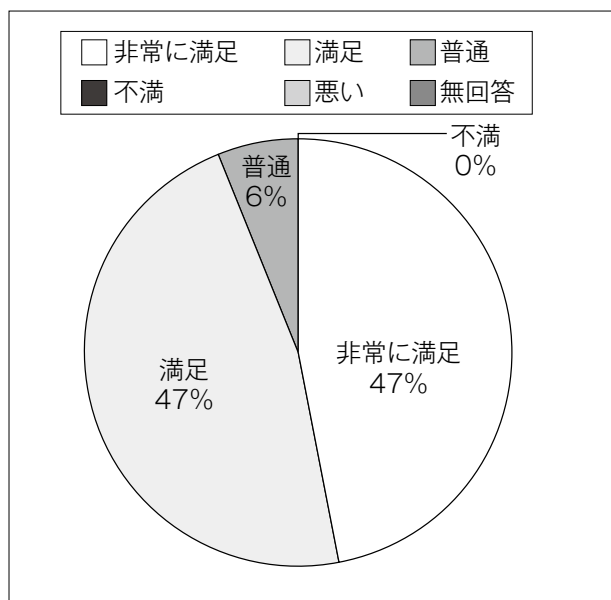
（エ）「職員の言動・態度」についての1件は、ご家族から本人の気持ちを汲み取って話してしてほしいとの要望であった。本人の言動、作業への取り組み態度などが他の利用者にも影響を与えていたため職員と本人で話し合いをしたが、本人は自分の言動が悪い事と理解できず、ご家族には「自分が怒られた」と伝えていたため、このような要望につながった。話し合いをした際にご家族にも連絡し、詳しく内容を伝え、ご自宅での言動について見守りをお願いした。

（コ）「利用者間の人間関係」についての3件中1件は仕事をしない利用者と一緒の班が嫌なので代えてほしいとの要望でA型利用者からB型利用者への苦情だったため、A型とB型の違いや従業員としてのB型利用者に対しての接し方、言葉かけについて話し合いを行った。他の2件に関しては、利用者から嫌な事を言われたので謝ってほしいとの要望だった。それぞれの利用者から聞き取りを行い、嫌なこ

とを言った利用者の一方的な意地悪だったため、謝罪と今後は利用者同士でトラブルになる前に職員へ報告してほしい旨をお願いした。

（シ）「その他」については、ご家族の方からピアスはしてはダメなのか、契約書にもダメとは書かれていないのでつけてもいいのではないかと問い合わせであった。日中の仕事では付けなくて欲しい旨をお願いした。理由としては身だしなみや衛生面の事について説明する。今までピアスを付けてくる利用者がいなかったため、入職の際に詳しく説明していなかった事業所側の責任でもある。今後は身だしなみの所にアクセサリについても説明を入れるようにした。

4. 満足度調査結果



2024年度はA型11名、B型19名の計30名が回答した。総合評価は「非常に満足」47%（前年度70%）、「満足」47%（前年度18%）、「普通」6%（前年度12%）だった。前年度に比べると非常に満足が23ポイント減少し、満足が29%向上しているが合わせると約9割の利用者が満足しているとの回答になった。これは相談や苦情に素早く対応していることが、利用者の満足に繋がっていると考えられる。今後も利用者とのコミュニケーションを大切にしていきたい。今後も利用者の思いや声をこれまで以上に聴くことで更に改善していきたい。

5. 今後の課題と展望

2024年度は、前年度に引き続き就労移行事業と就労定着事業の「事業休止」を継続申請してスタートする事となった。就労継続支援事業については、A型では現員12名でスタートしたものの1名が退所、下期は11名で推移。B型は年度途中で2名の増員があったが、利用者の高齢化で介護施設への移行や併用が増加し期中に1名退所、1名がほぼえみ生生活介護併用利用が増えたものの、一般就労への移行の1名退所があり現在定員24名に対し20名で推移した。報酬単価の改定が行われ基本報酬単価が上がり、利用者確保による増収を見込んだが、就労継続支援A型は増収できたものの、B型においては新規利用者の増員ができず、減収となっている。

就労継続支援事業の収支についてクリーン班では病院でのクリーン作業の一部拡充した取組みを開始。若干の収入増があったものの最低賃金の大幅な引上げがありマイナス収支となっているため再度契約金額を見直す必要がある。またカフェ班について

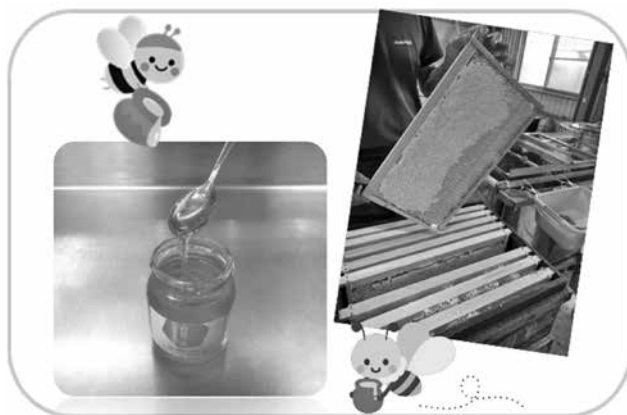
は、材料費や資材価格が高騰し続けており、販売価格の引き上げを行ったが収支改善に反映されるまでには至っていない。他の取組として、はちみつやブルーベリージャム等の商品販売や外部へのお徳用袋の販売、イベント等での販売等で若干のプラス収支となった。

2025年度、かがやきではコロナ禍で開催することができなかった就労体験や見学会などを行い、特別支援学校やご家族との交流の場を増やし、より理解して頂く場をつくる事で体験実習の受入れや新規利用者の獲得へと繋げていきたい。福祉サービスの事業費の収支においては、就労継続支援B型の基本報酬単価の格上げ、利用者増により収入増が見込まれるため、利用率向上に向けた活動を充実させてゆく予定である。また、カフェ事業では新たな商品を扱いたいため取引先の開拓を行い売上高の回復を図っていく。クリーン事業においては清掃請負金額の見直しについて病院との協議を進め、2025年度から新たに更改した契約金額でスタートできるようにする。

活動写真



アピリンピック県大会の様子
(2024年6月23日 棧敷野さん)



熊本県芦北町で採れた純粋百花蜜の販売開始
(カフェ)

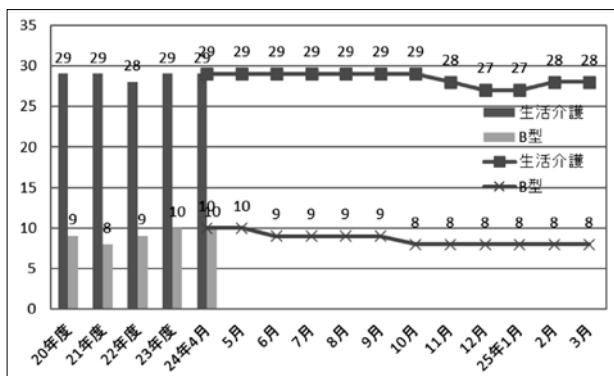
社会適応プログラム：ベッドメイキング体験
(2025年3月12日 企業連携)

1. スタッフ構成（2025年3月1日時点）

管理者	1名	作業指導員	1名
係長・サービス管理責任者			1名
支援員	14名	看護師	1名

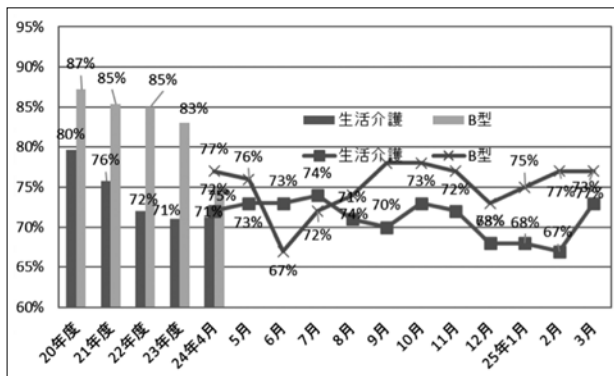
2. 2024年度の活動

(1) 利用者数



生活介護では、新規で4月と2月に1名ずつ利用開始。10月、11月、3月に1名ずつ退所。B型では5月と9月に1名ずつ退所。入所施設への移行のための退所は、今後も増えてくると思われる。2025年度は、4月より生活介護に2名新規利用予定。

(2) 利用率



生活介護、B型ともに定員を割っており、入院や体調、精神面の不調などもあり欠席も多く利用率が平均70%台となった。特に12月～2月は、生活介護でコロナ陽性者が複数名出ており重症化しての入院、回復に時間がかかるなど利用率の低下が著しくなっている。

(3) 事業概要

2024年度は、報酬改定が行われ生活介護において利用者の障害支援区分、利用者定員及び所要時間

に応じた報酬単価が設定されたことにより当初大幅な減収が見込まれた。そのためプロジェクトチームを発足させ、利用時間の延長やユニット制の解体などを検討し、サービス給付費の増収と利用者支援の充実に向け取り組んだ結果、大幅な減収にはならなかった。また、B型パン工房においては、物価の上昇により原材料費の値上がりに対応するためパンや焼き菓子の価格の見直しを行い、季節のギフトと共に様々な機関より折々にギフトの受注を受け、また、販売会への参加を増やすことで収入の維持を図ってきた。ICTの活用においては、ほのぼのmore、LINE WORKSにより、タイムリーに情報を共有することで支援の充実、業務の効率化を図ることができた。福祉センター20周年にあたっては、秋まつり、動画作成、記念式典等において、利用者と共に参画し、利用者の活動の様子やB型パン工房の商品を多くの方々に知っていただく機会となった。

①品質 向上

- ICTの活用においては、ほのぼのmoreの活用範囲を広げ、LINEWORKSによりタイムリーに情報を共有し、パンやギフトの受注時にFormsを使用することで効率化を図った。また、動画を使用し、B型利用者の接客マナーの向上、生活介護の活動の広がりにつなげた。
- 環境面においては、倉庫を整理し不要物を廃棄、作業工程、利用者の関係性などを考慮しパン工房内作業台のレイアウトを変更した。
- 生活介護では、ユニット制の見直し、「やりたいことをかなえよう」と題し小グループでの希望活動を実施、サークル活動では希望に応じ「そだてるサークル」「つくるサークル」に分かれ農園で作物を育て給食で提供してもらい、季節ごとの調理や制作活動を実施するなど、活動の充実を図った。

②連携 協働

- B型パン工房では、インスタグラムを活用し、パン工房の商品紹介、販売会の告知などを行った。また、利用者自身がお勧めする商品のチラシを作成し販売会時に使用することでお客様との交流を

図った。外部イベントにも年間12イベントで販売を行い地域交流、利用者の地域参加の機会とした。

- 生活介護では、コロナ禍で中断していた音楽ボランティアの定期開催を復活、土曜日活動時に新たに2つのボランティアに来ていただき利用者との交流の場を設けた。
- 福祉センター 20周年にあたっては、20周年記念式典のおみやげとしてB型パン工房のギフトセットを配布、秋祭りでは生活介護利用者の作品を展示したり利用者のステージ発表を行うなど利用者が参加できる場を意識し取り組んだ。

③安定 経営

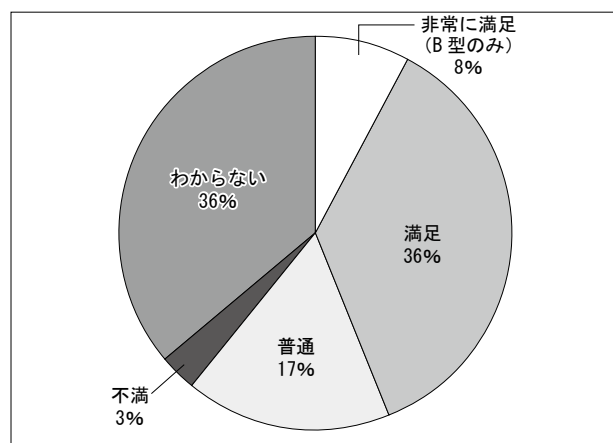
- ソーシャルワーク実習を2名受け入れ、実習終了後もボランティア等の呼びかけを行い、将来の職員確保へと繋げている。
- B型では、売上向上、加算取得に向け工賃向上計画を作成した。
- 報酬改定による生活介護の基本報酬減収対策として、送迎コースや送迎時間を見直しサービス提供時間を延長、重度支援加算の新規取得などを行った。
- 新規利用者獲得に向け、特別支援学校の実習期間外での体験実習等を受け入れ、2名の新規利用に繋がった。

3. 苦情・要望

分類	内容	件数
ア	施設等サービスの改善	1
イ	排泄介助	1
ウ	食事	0
エ	職員の言動・態度	2
オ	入浴	0
カ	金銭・私物管理	0
キ	事件・事故	0
ク	契約締結	0
ケ	利用料	0
コ	利用者間の人間関係	0
サ	人権問題	0
シ	その他	4
	合計	8

2024年度は、利用者本人より1件、家族より4件、GHより3件の申し出があった。サービスの改善に関しては、排泄時に汚染された衣類の返却方法として、事業所内への感染防止のため洗わずに密封して返却していたが「水洗いをして欲しい」との要望を受け感染防止に配慮した返却方法を検討し対応することにした。職員の言動に関しては、利用者本人から職員と利用者の距離感について意見があり、指摘のあった職員に対し注意喚起を行った。また、「報・連・相」が不十分であることから発生した苦情が複数件あっており、LINEWORKS等を活用し、どこからでも迅速に情報の共有ができるようにした。送迎に関する苦情は、暑い時期の感染対策により車両のエアコンが十分に効いておらず利用者の体調が心配されるとの内容であり、車両の各種機能の適切な使用、車両の点検等を行ったが、効果が無かったため車両の変更を行った。利用者より「傘立てが錆びついている」「キーパーが古い」「壁にカビがある」等の報告を受け、買い替えや清掃など対応を行った。

4. 満足度調査結果



B型8名、生活介護28名が回答。約80%が「満足」、「不満」が3%との結果であった。「不満」の理由は、B型利用者の「自分の目標からすると（現状には）満足できていない」と自分の目標に向き合った前向きな意見であった。意見の中では、廊下の汚れ等が生じたことからB型の玄関を生活介護と同じ場所に戻したため「靴箱の場所は、前の方がいい」という回答が複数あった。不満や不都合を確認しながら改善につなげていきたい。また、感染予防のため、冬

場でも換気の時間を設けており「寒い時がある」との意見があがっていた。換気の時間帯を工夫し細目に室温を確認するなど対応を行っていく。今回、生活介護では30%以上の利用者が「わからない」との回答になった。今後は、質問内容や回答の選択肢を視覚化するなどの工夫を行っていく。

5. 今後の課題と展望

2025年度は、福祉センターのキーワードである「やってみよう！」を掲げ、より分かりやすいマニユ

アルの作成による「支援と業務の標準化」、生活介護の活動範囲を広げることにより「地域との交流」、就労継続支援B型パン工場の働く環境を整備することにより「B型利用者の充足」を目指す。また、収支状況の改善にあたっては、生活介護の人員配置体制加算、重度障害者支援加算の取得が維持できるよう支援の充実を図り、他機関への積極的な情報発信や福祉センター内プロジェクトとの協働により就労継続支援B型利用者の充足に向け取り組んでいく。

活動写真



天明市民のつどい パン販売



秋祭り 生活介護ステージ発表



ボランティア(バルーンアート)



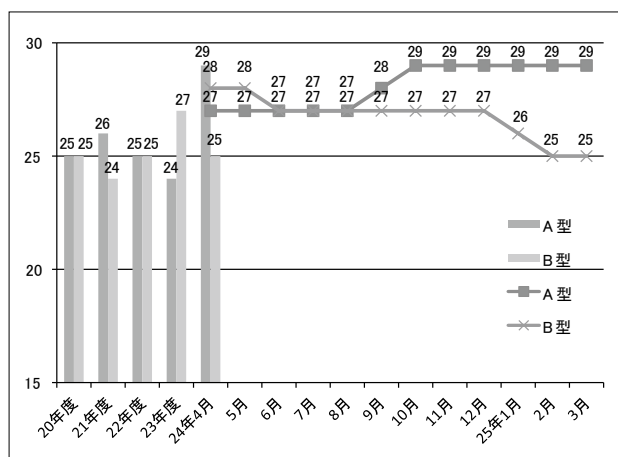
地域清掃(天明まちづくりセンター)

1. スタッフ構成（2025年3月1日時点）

管理者	1名	副管理者	2名
係長・サービス管理責任者	1名	主任	2名
支援員	10名	作業指導員	13名
調理員	1名		

2. 2024年度の活動

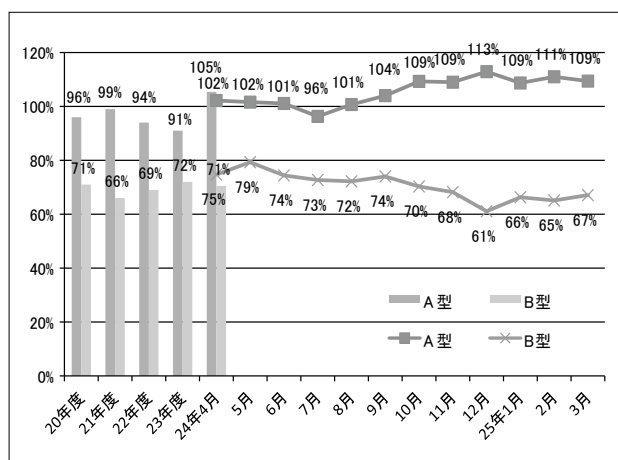
(1) 利用者数



A型は2024年4月に3名の新卒利用者を受け入れ、27名でのスタートとなる。その後、9月、10月に1名ずつ受け入れ、10月以降は29名となった。

B型は新卒利用者を1名を受け入れ、28名となった。その後、6月、1月、2月に1名ずつ退所され、2月以降25名となった。

(2) 利用率



A型は、新規利用者3名の入職により、年間平均で105%の利用率であった。B型は、退所者が続いたこと、高齢化に伴う介護施設との並行利用者が増

加していることで、利用率は75%に止まる結果となった。

(3) 活動内容

① クリーニング工場の改修および大型機器更新

2024年7月から2025年3月にかけて、クリーニング工場の改修および機器更新をおこなった。工場の稼働を止めることができないため、合計93回にもおよび綿密な打ち合わせを行いながら改修を進めた。

● 第Ⅰ期工事

期間：2024年7月～11月

内容：寝具工場の改築および設備入替、2本目の井戸を掘削、公共下水道に接続

● 第Ⅱ期工事

期間：2024年12月～2025年3月

内容：ユニフォーム工場・トイレ・更衣室の改修と設備入替、公共下水道に接続

<改修前後比較>

- 1) クリーニング工場面積 1.46倍に拡大
- 2) ユニフォーム受入許容量 1.63倍に拡大
- 3) 寝具類の受入許容量 1.97倍に拡大

② クラウドファンディングで目標達成

2024年10月1日からの80日間で目標額5百万円と設定し、クラウドファンディングに挑戦した。

（結果概要）

- 1) ページ訪問者数 2,429人
- 2) 支援延べ数 233件 ※199人、34社
- 3) 支援金額 8,866,000円 ※達成率177%

③ 就労継続支援B型事業で公用車の洗車を実施

これまで、ガソリンスタンドにて公用車の洗車をおこなっていたことに着目し、B型事業として公用車の洗車作業を開始した。シャンプー洗車、ワックス施工、車内清掃を利用者さんが中心となり、あらたな就労事業として挑戦した。

④ 休日余暇活動で久々の県外へ

新型コロナウイルスの感染拡大以降、県外への外出は控えていたが、約4年ぶりに再開した。

A型およびB型利用者の計33名で福岡市のマリンワールド海の中道へ行き、水族館でイルカショー

を観覧後、博多はねや総本家で郷土料理を楽しまれた。

3. 苦情・要望

分類	内容	件数
ア	施設等サービスの改善	1
イ	排泄介助	0
ウ	食事	0
エ	職員の言動・態度	1
オ	入浴	0
カ	金銭・私物管理	1
キ	事件・事故	0
ク	契約締結	0
ケ	利用料	0
コ	利用者間の人間関係	0
サ	人権問題	0
シ	その他	0
	合 計	3

2024年度の苦情・要望は、利用者本人から1件、利用者家族から2件、合計3件であった。

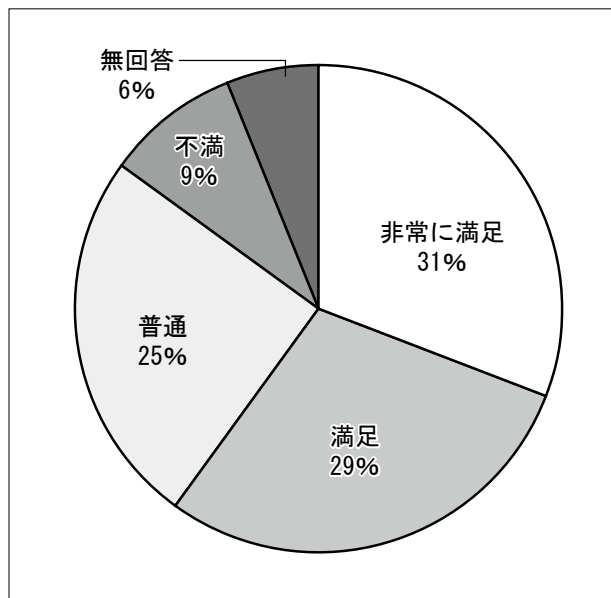
『施設等サービスの改善』については、作業棟のトイレ清掃当番の偏りに関するご家族からの要望だった。利用日数や利用時間が変則的な利用者もいるため、偏りが出ていたが、一定のルールに則った当番制に変更し、本人に説明を行い納得いただいた。

『職員の言動・態度』については、勤務シフト表の「いたずら書き」に対する要望だった。掲示板のシフト表で、利用者本人の早退（シフト変更）理由にいたずら書きがされており、それを二重線で消されていた。対応としては、シフトの変更理由は記載しない、内部外部問わず、閲覧可能な掲示物への書き込みは職員が行い、記載内容には注意することを周知した。

『金銭・私物管理』については、利用者の財布紛失に関するご家族からの苦情と要望だった。作業終了時の更衣後に財布がないことに本人が気づき、職員がご家族へ利用者の携帯電話から状況報告をおこなった。その後、自宅で財布は利用者のズボンの中から見つかったが、ご家族に電話する時は、事業所

の電話からかけて欲しいということ、作業中の金銭管理は事業所ですて欲しいという苦情と要望があったため、その後、職員間で周知し、改善している。

4. 満足度調査結果



「非常に満足」「満足」が60%となり前年度よりも2%増加した。2024年度のクリーニング工場の改修により作業環境は大きく改善されたため、満足度の更なる向上に期待したい。

5. 今後の課題と展望

2024年3月に新食品加工棟が竣工し、2025年3月にはクリーニング工場の改修工事が完了した。この2年掛かりの大規模改修によって、利用者さんを取り巻く職場環境は大きく改善された。

この魅力を活かし、下記3点の取り組みを進めていきたい。

1点目は、新規利用者の受入を推進すること。特にB型事業においては、利用率75%に止まっているため、真新しい職場環境を魅力の一つとして、広報活動を強化したい。

2点目は、クリーニング事業を拡大すること。2024年度の改修により、受入許容量は拡大した。最新の機器で、より高い品質・より多くの品物を医療機関に提供するべく、営業活動を強化したい。

3点目は、B型事業を再生すること。A型事業のクリーニング事業に対して、B型は中核となる作業

が安定していないため、中核事業を模索し、推進していきたい。

活動写真



土曜日活动(宇土市大太鼓収蔵館にて)



新クリーニング工場での作業



秋のレクリエーション(マリンワールド)



新クリーニング工場での作業



新食品棟での作業



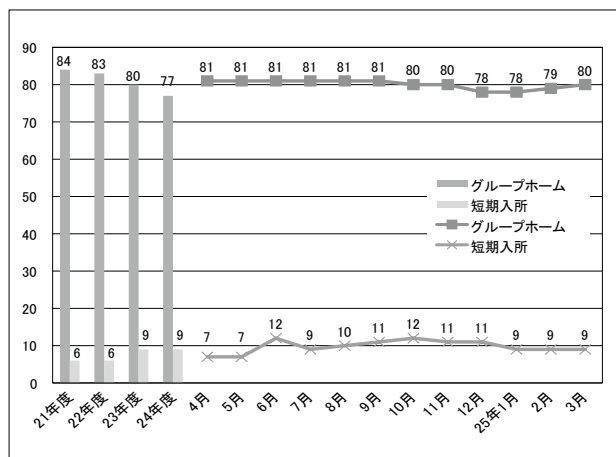
クラウドファンディング

1. スタッフ構成（2025年3月1日時点）

管理者	1名	係長	1名	主任	2名(1名兼務)
サービス管理責任者	3名				
支援員	7名	支援員補助	2名		
世話人	26名	夜間支援専門員	4名		
看護師	3名	事務員	1名		

2. 2024年度の活動

(1) 利用者数



① 共同生活援助事業（グループホーム）

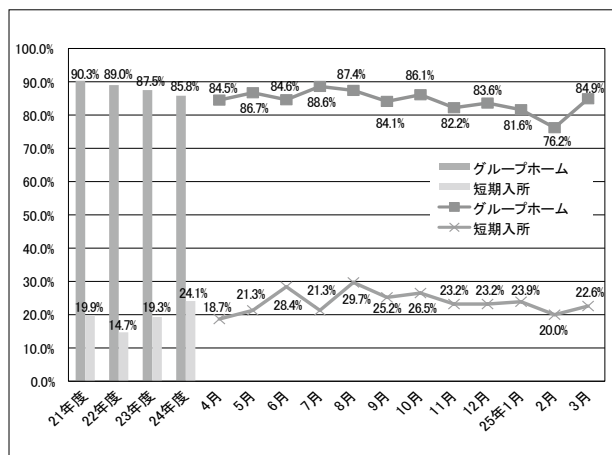
2024年度の3月1日時点で77名（男性57名、女性20名）月当たりの平均利用者数は80名で、新規の利用者は、精神科病院から退院後の受け入れがあったものの、年度途中の受け入れは1名に留まっている。次年度からの利用は、年度末に他グループホームから1名と特別支援学校から3名の受け入れを予定している。対して退所は、日中支援型への移行1名、入所施設への移行2名、自立1名、その他1名の5名となった。

特に、これまでに入所施設の待機申請を行っていた利用者の入所施設の移行が顕著となり、退所者の増加がみられた。

② 短期入所事業（ショートステイ）

2024年度の新規契約者は男性3名、女性1名で済生会以外からの利用希望者も増えている。年度の延べ利用日数は440日（月平均36.6日）の利用で2023年度363日と比べても、利用者数、利用日数ともに増えている。

(2) 利用率



① 共同生活援助事業（グループホーム）

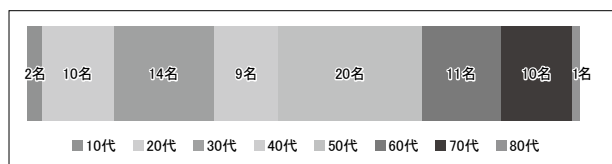
2024年度の利用率は85.8%で、前年度87.5%から、1.7%低下した。

利用者の年度途中からの新規獲得が進まなかったことに加え、年度途中での退所や、怪我や療養のため、長期入院となった利用者も複数名いたことも影響して利用率は全体的に低下している。

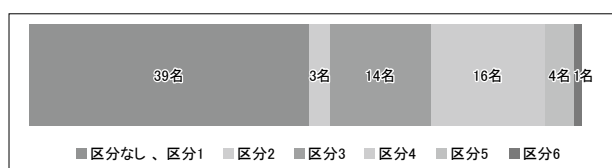
② 短期入所事業（ショートステイ）

2024年度は、24.1%と前年度19.3%から利用率は向上している。コロナ発生により利用制限することにも数回あったが、新規利用者を積極的に獲得するとともに、継続利用者へも毎月の予約を積極的に働きかけることで、ほぼコロナ前の利用率と変わらない状況に戻っている。

(3) 共同生活援助事業利用者の年齢別・支援区分年齢別構成



支援区分

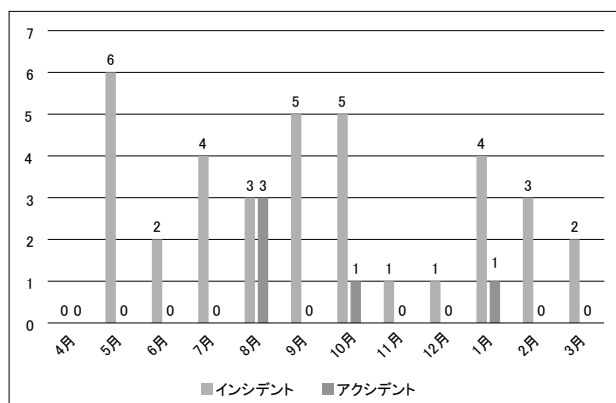


2024年度の年齢別構成は、10代20代の若い世代の利用者が増加しているものの、60代以上が22名（うち介護保険サービス利用者9名）と全体の4分の1名の割合を占めており、50代も20名と今後、利用者の高齢化は顕著となっている。

支援区分については、39名の方が、区分なし、区分1で、全体の半数の利用者が支援の必要度が軽めと判定される現状にある。また入所施設への移行もあり、区分5以上の重度の利用者数は減少している。

今後も若くて障がい軽度の利用者と、高齢で障がい中程度の利用者の二極化が進んでおり、今後の事業運営の課題となっている。

(4) インシデント・アクシデント



2024年度のインシデントの報告件数は38件、アクシデント報告は6件の計44件となった。

内容は、服薬管理に関する内容が全体の4割となり、服薬のセットから提供までの手順を定めているも、服薬を管理する人数や交代勤務で複数のスタッフが関わるため、確認忘れ等の人的ミスが多く、特に新しく入職したスタッフが慣れた頃に確認を忘れることも数件見られた。また高齢の利用者も増え、浴室等の転倒など転倒の件数もあがっている。また、障がい特性から予期せぬ転落の事故もあり、見守りの体制や環境の改善などの対策が必要なアクシデントも発生している。

3. 活動の内容

(1) 利用者支援

①うちだホームにおける余暇支援の充実

利用者の活動内容の充実を図り、毎月季節の行事に合わせて、イベントを行うなどして余暇活動の充実に取り組んだ。

②高齢化に対応した利用者支援

介護保険サービスを利用する利用者も増えている現状で、急速に身体状況や認知面が変化していく利用者に対しては、医療や介護との連携を図り対応している。環境の設定など行うことで、利用者が長く親しんだ住まいを継続できるように対応を検討している。

③意思決定支援の充実

利用者の意思決定を支援できるように職員研修でも取り上げ、支援の質の向上に取り組んだ。日ごろのミーティングでも利用者の意思決定など尊重できるように対応を協議するようにスタッフ間の意識の向上を図っている。

(2) 運営業務の改善

①金銭管理の徹底

利用者からの預金以外に生活費や医療費などの預かり金管理の支援も行っている。預り金管理に関しては、出入金の際には利用者の確認とサインをもらうように徹底している。また毎日の残金を確認するなど、日々の出入金に間違いがないか確認する仕組みを作った。

②利用者食事注文の管理の見直し

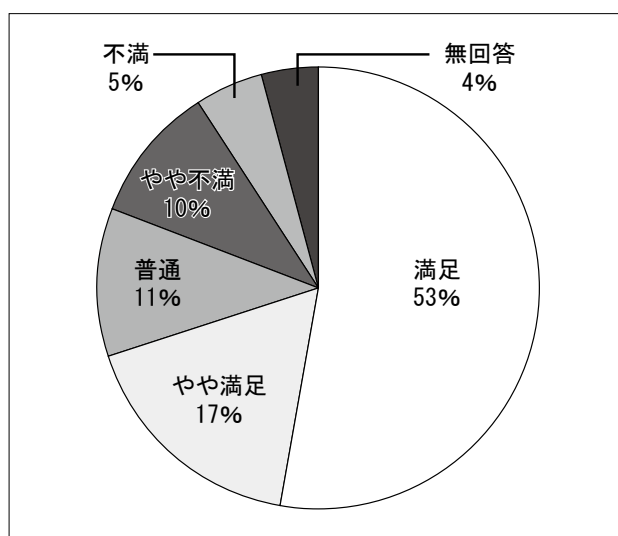
利用者の食事を注文する際に、ホームごとの形態や朝食、夕食、休日の昼食など、それぞれの食事の形態で複数の発注先があり、それを管理する表が複数あった。管理がしやすいように、統一した表で管理するとともに、ホーム毎の担当支援員が入力するような仕組みを作るなど業務の平準化を図った。

4. 苦情・要望

分類	内容	件数
ア	施設等サービスの改善	0
イ	排泄介助	0
ウ	食事	0
エ	職員の言動・態度	1
オ	入浴	0
カ	金銭・私物管理	0
キ	事件・事故	1
ク	契約締結	0
ケ	利用料	0
コ	利用者間の人間関係	3
サ	人権問題	0
シ	その他	2
	合 計	7

2024年度の苦情受付件数は7件だった。「事件・事故」が1件とあるが、利用者の予期せぬ事故に対して事業所の対応や責任を考えさせられる事例となった。また「その他」では、地域の住民から利用者の言動に対して苦情があがっている。地域住民の方には「障がい」に対しての理解を頂きながら、利用者には、地域で暮らしていくための社会性も求められる。約束事などしていきながら対応を行った。

5. 満足度調査結果



在籍81名中、77名回答（回答率95%）「満足・やや満足」は70%で、前年度から5%上昇している。満足していると評価の中には、職員の対応について、「いつも親しみを込めて接してくれる」という意見がある一方、並建や地域のホームでは「相談後の回答が遅くなる事がある」等の声もあった。「施設内の設備について」改善を求める声もあり、優先度を考えながら施設整備を進めていく。

6. 今後の課題と展望

(1) 近見ホーム（仮称）設置の具現化

将来構想の第一弾である済生会熊本病院隣接地の用地を確保。2027年の施工に向け準備を進めている。地域のグループホームの老朽化や拠点化を進めることで、今後の支援体制の改善を図れるように、次年度具体的な計画を進めていく。

(2) 品質 向上

意思決定支援や利用者へのサービスの質の向上に向けた取り組みは継続しながら、利用者の人権に配慮した支援が向上するように今後も取り組んでいく。

また、個別支援計画や記録や環境整備には課題があり、今後もKAIZEN活動を推進し、書類や支援の環境整備を進め、記録の充実や支援環境の整備などの課題解決に取り組んでいく。

また、支援スタッフも高齢化していくなかで、食事提供方法などの見直しを行うなど、従来の方法にとらわれず、事業が継続して運営できる方法を模索していく。

(3) 連携 協働

2025年度はグループホームでの「地域連携推進会議」の設置が義務化される。これまで同様に、広報誌などでの情報の発信や地域に出向き地域行事に参加するだけでなく、地域に開かれた運営を目指して「地域連携推進会議」を設置することで、事業所の理解を促進し、サービスの透明性、質の確保を推進していきたい。

(4) 安定 経営

令和6年度の福祉サービス報酬改訂では、基本報酬が減額されたが、新たに新設された「人員体制加算」12:1を取得することで、報酬改定以上の報酬単価を確保することができた。しかしながら、先に述べたように利用者の利用率は低下しており、収入は減少している。

また、2025年12月からは、世話人の退職を機に「すずらんホーム」の運用を一時停止せざるを得ない状況

となっている。昨今の社会情勢で福祉人材の不足が顕著となっている中、今後も世話人に限らず、支援員を含めた支援スタッフの確保は大きな課題となっている。

今後はより確実な利用者獲得の取り組みを行うことで、報酬を確保していく。併せて支援スタッフを確保し体制を整備していく。

活動写真



内田施設 だご汁会



並建地区 地域清掃



内田施設 防災訓練



手洗い講習

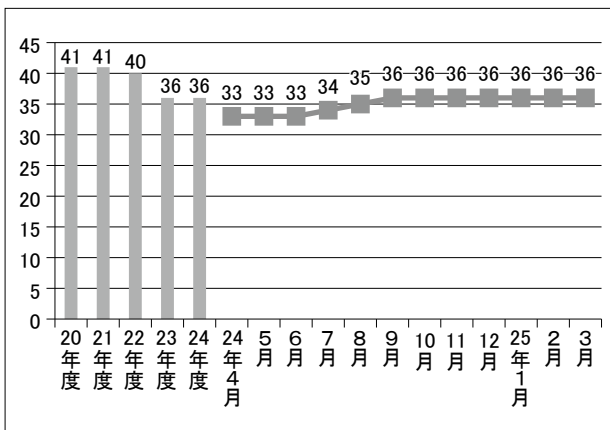
1. スタッフ構成 (2025年3月1日時点)

管理者	1名
係長(児童発達支援管理責任者)	1名
主任	2名(2名兼)
保育士	11名
児童指導員	3名
機能強化員(言語聴覚士)	1名
調理員	2名

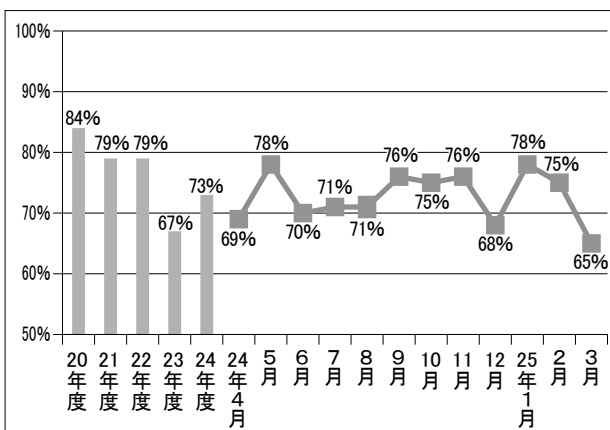
2. 2024年度の活動

(1) 児童発達支援事業

①契約者数



②利用率



年間利用者数は5,878人、月間の平均利用者数は490人であった。利用者数目標を500人/月(6,000人/年)と定めており、その数字には僅かに及ばなかったものの、昨年度実績をやや上回る結果となった。

8月の台風接近による閉園(1日間)、コロナやインフルエンザ等による欠席は大きな影響とはなら

ず、各月の収支は年間を通じて堅調に推移した。

施設設備面では現園舎建築から8年が経ち、室内外で不具合箇所が増えてきている。床板の剥離、引き戸の開閉困難、排水管の詰まり等に対して応急的な営繕修理を行った。また、本年度はこどもたちが使用するクラスやホールのエアコン洗浄を優先的に実施した。

(2) 保育所等訪問支援事業

訪問先別回数(延べ)

年度	こども園	幼保小	養護	合計
2023年度	143回	53回	14回	210回
2024年度	228回	4回	0回	232回

年間の実施目標回数(240回)を概ね達成することができた。訪問先職員や保護者の支援ニーズの高い対象児がいたこともあり、こども園への支援回数が前年度に比べて大幅に増加した。

(3) 熊本市児童発達支援センター等機能強化事業

本事業を受託している3センター間での情報共有や5センター連絡会での研修会開催など児童発達支援センターの中核的役割への意識向上や人材育成に努めた。また、地域における障がい児支援の質の向上を図るべく、各種会議や研修会の企画運営等、多岐わたり実績を積み上げてきた。いずれの取組も本園の機能強化員が中心的存在となって、他センターと協力しながら本事業の充実発展に寄与しているところであり、モニタリング調査の評価においても高い評価を得た。主な実績は以下のとおりである。

①事業所への後方支援

- ・巡回訪問(延べ9件)・来所相談(16件)
- ・事業所サポート日 14事業所(延べ50件)

②研修会開催・会議開催、各種会議参加

- ・『多職種連携』(通所、相談、行政 130名)

(4) 障害児等療育支援事業

- ・個別相談、小集団活動『Ekubo』(延べ132件)

(5) 活動内容

①品質 向上（質の高いサービスの提供）

発達支援においては、本人支援の「5領域」及びその5領域の視点を網羅した総合的な支援について園内外における様々な研修をととして職員の学びを深めた1年であった。特に、6月には本園支援者の多くが全国児童発達支援協議会主催の「全国研修会 in 熊本」の運営に関わるなど、大変有意義な学びの場となった。

また、外部講師として「うめだ・あけぼの学園」の酒井学園長を招聘し、「児童発達支援センターの職員として」と題し講話をいただいた。児童発達支援センターをめぐる歴史や現在の仕組みを学ぶ中で、今後本園が取り組むべき課題も見えてきた。

さらに、毎日通園の保護者を対象に「おやこのはなタイム」という定期親子通園日を設け、家族支援の充実を図った。

前年度末に導入した登降園管理システムHUGの本格運用を4月から開始した。利用登録、日々のサービス提供記録、家庭からの連絡、園からの連絡、請求業務等、電子化されたことと併せて1人1台のパソコン導入により、業務の効率化が図られた。

②連携 協働（地域社会・家族との連携強化）

地域社会との連携に関して、前年度はコロナ5類移行後の地域民生児童員さん方との交流が園行事にとどまっていたが、今後の地域との連携拡大を意識し、日常的な交流の機会を増やしてきた。また、防災避難訓練にも参加をいただくなど、本園の理解の深まりと地域防災への共同参画への足掛かりとした。



（力合西校区民生児童委員さんとの勉強会）

家族との連携という点では、コロナ禍以前に行っていた家庭訪問を再開した。全家庭にご協力いただき実施することができた。また、本園が主催している就学勉強会やつむぎの時間に加え、保護者サークルとの協働活動として、内田施設での見学会を行い、こどもたちの将来について考える機会を設けた。その他、余暇活動（2回）を行い、保護者間の交流を深めた。

③安定 経営（福祉サービス収益の安定）

令和6年度報酬改定や児童発達支援センターとしての中核機能充実を見据えて、各種加算取得に向けた取組や園内体制の整備を進めてきたこともあり、年度当初からスムーズな事業運営が図られた。

収支面では、経常収支が大幅に改善し、経常利益率は11.3%（前年度比+7.5ポイント）となった。

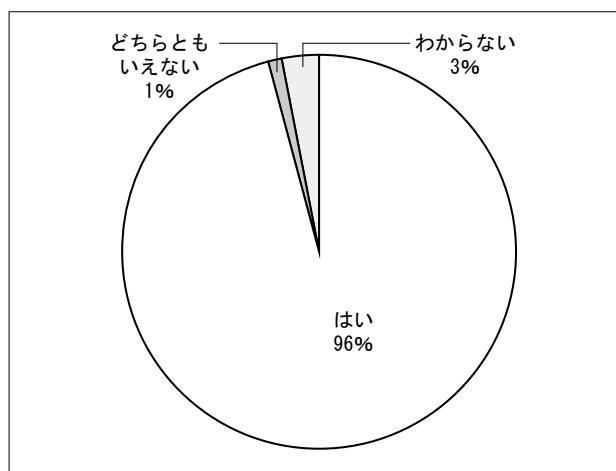
3. 苦情・要望

分類	内容	件数
ア	施設等サービスの改善	4
イ	排泄介助	0
ウ	食事	0
エ	職員の言動・態度	0
オ	入浴	0
カ	金銭・私物管理	0
キ	事件・事故	0
ク	契約締結	0
ケ	利用料	0
コ	利用者間の人間関係	0
サ	人権問題	0
シ	その他	0
	合 計	4

昨年度比－2件であった。苦情や要望に関しては、登降園時の保護者との会話やHUGへの記載等からご意見・ご要望を吸い上げるよう心がけている。

また、毎年度行っている苦情・要望に関する研修や夕礼時のヒヤリハット事例の共有等をととして職員の意識の向上を図っている。

4. 満足度調査結果



2024年度から児童発達支援事業に加え、保育所等訪問事業についても「自己評価」「保護者評価」「訪問先施設評価」を行うことが義務付けられた。本年度は、こども家庭庁から示された自己評価の様式等を用いて満足度調査を実施し、回収率は97%であった。掲載している円グラフは児童発達支援事業に係る保護者評価を表したものである。概ね高い評価で、感謝の意を多くいただいたが、「親子通園なので、まだ避難訓練に参加したことがない」どのような支援をされているのかあまり見たことがない」といった意見もいただいた。これらについては、年度内の取組の中で改善を図ってきたところである。

また、保育所等訪問事業については、子ども理解や対応法等に関する訪問先との情報共有に関して、訪問先から「新たな気づきがあった」「より深い理解に繋がる」などの意見があった。さらに、「園で取り入れやすい具体的な方法を教えてもらいたい」とい要望もあった。支援ニーズに応えられるよう、支援内容の充実や訪問支援員の質の向上に努めていきたい。

5. 今後の課題と展望

(1) 質の向上

① アセスメントの有効活用

- ・アセスメントの再検討
- ・専門的支援の強化

② 支援プログラムの明確化

- ・プログラム策定による支援の質の平準化

(2) 連携 協働

① 福祉センターのスケールメリットの活用

- ・しらふじ子ども園とのインクルージョン保育の推進

② 地域連携を通したソーシャルワークの実践

- ・地域との協働による防災訓練
- ・地域事業所との連携

(3) 安定 経営

① 中核機能の発揮による安定経営

- ・4つの機能の丁寧な実施

② 満足度向上による安定経営

- ・ポジティブ保育の推進による信頼確保

(4) 施設設備

施設設備面では、給食専用の部屋、個別支援や発達検査のための諸室、十分な広さの研修室など、発達支援の充実や地域支援の拡充を図るための諸室の整備が必要である。

大規模な増改築を含めた整備事業の検討に取り掛かりたい。

活動写真



(おやこのはなタイム)



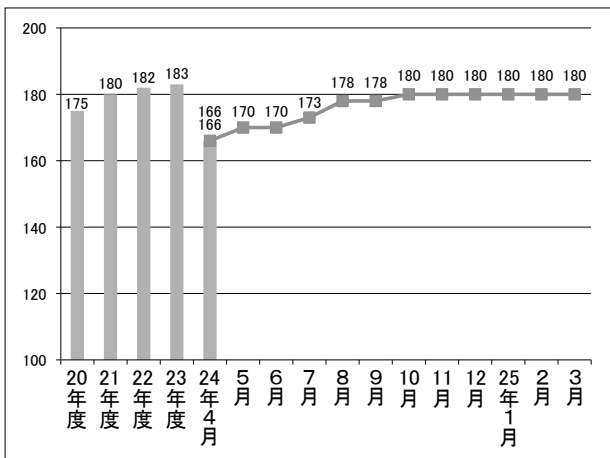
(地域のボランティアによるパネルシアター)

1. スタッフ構成（2025年3月1日時点）

園長	1名	准看護師	1名
教頭	1名	栄養士・調理師	3名
主任	1名(1名兼務)	保育補助	1名
主幹保育教諭	2名	調理補助	2名
保育教諭	28名	労務員	1名

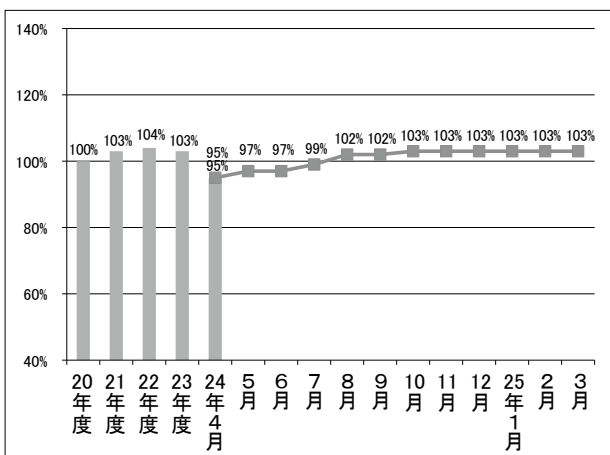
2. 2024年度の活動

(1) 園児数



今年度4月から7月までは園児数を確保することが出来ず、苦しい立ち上がりとなった。その要因は0歳クラスが7月まで確保することが出来なかったことにある。1号認定に関しては、10月以降定員の確保ができ、4月当初は166名に始まり3月は180名となり、年間の平均人数も176名で何とか園児を確保することができた。

(2) 利用率



定員も最終的には確保できたことで、101%（94%～103%）で利用率も安定して、過ごすことが出来た。

(3) 活動内容

今年は創立20周年で様々な行事や印刷物に創立20周年記念やロゴマークをプリントした。特に11月16日に熊本病院のコンベンションホールを会場として記念講演会を開催した。「生田歯科医院 院長藤原康夫氏」迎え『噛む（哺乳）から始まる子供の未来』～0歳からの口腔調査から判明した不正咬合の原因と対策～と題して136名の観客を前にお話し頂き、大変良い学びの場となった。

保護者との現金の授受を無くすために2月よりエンペイを導入し、事務の省力化に貢献している。

行事においては、10月5日の運動会を今年初めて城南町総合スポーツセンターを使用して開催した。駐車場が分散し大変であったものの、成功裏に終わった。また園児と職員による「しらふじFunDay」を実施し、ゲームや手作り昼食会・手作りおやつを堪能した。また、12月21日の「発表会」は「火の君文化ホール」にて実施した。発表会のDVDに関しては、すべてのクラスを対象に日常のクラスの様子や子ども達の園での様子も加えて撮影し、好評を博した。らいおん組が毎年スケートを行っていたが、会場の改修のためにスケートが実施出来ず、宇城市三角町の宮田農園まで行き「ビスケット・ピザ作り」に参加し美味しいピザを堪能した。

3. 苦情・要望

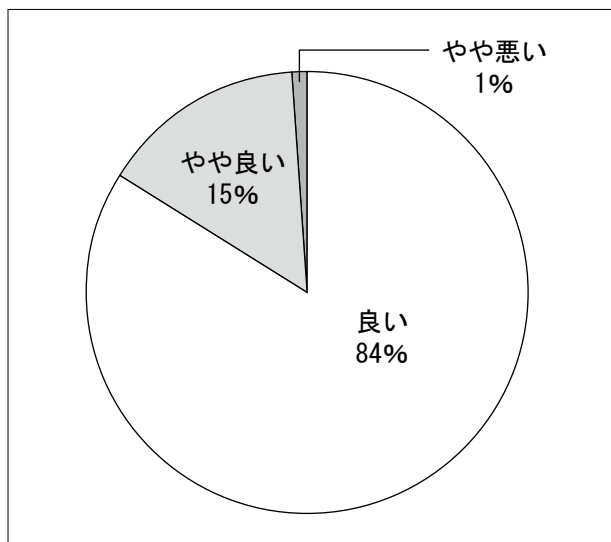
分類	内容	件数
ア	施設等サービスの改善	0
イ	排泄介助	0
ウ	食事	0
エ	職員の言動・態度	4
オ	入浴	0
カ	金銭・私物管理	0
キ	事件・事故	0

ク	契約締結	0
ケ	利用料	0
コ	利用者間の人間関係	0
サ	人権問題	0
シ	その他	0
	合 計	4

クレーム・要望の内容は以下の通りである。

- ① 4月2日（火）（年長児）先生の言葉かけやしかり方について、気をつけてほしい。年度末に子どもたちに向けての言葉はもっと期待を持たせるような言葉にしてほしかった。子どもの育ちを大切に、言葉遣いやいろいろな場面において適切な対応をしていくように伝えた。
- ② 5月7日（火）（1歳児）新年度になり、進級したクラスの雰囲気が悪く、職員の私語が多い様に思える。対応が昨年に比べてあまり良くない。クラスの雰囲気を改善してほしい。子どもの前で保護者の話はしてほしくない。対応については、すぐに注意し職員間で情報を共有し、意識を高める。
- ③ 7月5日（金）（年長児）和太鼓の練習中に体調が悪くなり、給食の時に嘔吐したと連絡をもらった。結果、脱水症と熱中症だった。日頃から見ているので対応ができた。7月8日（月）に担当より連絡を受け、母親より園児の様子を聞き、対応について謝罪する。後日、本人の様子を聞き、対応について謝罪する。状況に応じて、看護師などに見てもらい適切に対応する事を確認し、情報共有した。
- ④ 3月7日（金）担当から連絡帳にマイナスなことが書かれていた。今までに言葉かけで、母親が傷ついてきたことを、理解してほしい。対象の職員に苦情内容を伝え、連絡帳の書き方・言葉のかけ方で傷つかるので、悪気がない事はわかるが、十分に文章・言葉を選んで対応する。クラスの担任全員に保護者からの苦情を伝え、十分に意識することを伝えた。2週間後に保護者に、連絡帳や声のかけ方について伺い、大丈夫ですとのお返事を頂いた。園全体で気を付けていくべき事を全職員に伝え、実践していくことを確認した。

4. 満足度調査結果



2024年度は10月1日から11日に掛けてコードモンのアンケート機能を使い、回答者の氏名も判る方式で配信した。対象クラスは通常の6クラスから一時預かりの「ぞうさんクラブ」までの154所帯（昨年159名）を対象に112所帯（昨年130名）からの回答を得ることが出来た。回収率79.8%（昨年72.7%）も上がった。利用者家族等満足度調査の満足度の総合評価では、今回「良い」と「やや良い」の合計は99%で昨年度100%より少し低くなっている。今後も丁寧な保育を継続していき満足度を維持していきたい。

5. 今後の課題と展望

社会の価値観や家庭環境、子供を取り巻く状況は急速に変化しており、私たちも「時代が変わっていることを理解しなければならない」という意識をもって実践を見直していく必要がある。子どもたちの今と未来を見据えた保育の実現に向けて、変化に柔軟に対応しつつ、子どもたちの育ちにとって何が大切かを見失わない姿勢を保ち続けることが専門職としての歩みにつながるのだと感じる。今年度の保護者支援、園運営、園児対応などにおいて、園の理念に沿った最適な手段を講じ、SNSやICTを活用し、園の魅力を積極的に発信することにより、園児及び職員の獲得、利用者満足度の更なる向上を図りたい。

1. 業務改善

(1) 保育教育・支援の質向上

- ①園理念に沿った保育・教育活動展開、保育の質向上
- ②動画研修、ICT研修を活用
- ③効率的園運営、シフト管理

(2) 業務の見直し

- ①給食食材の仕入れシステム
- ②委員会の効率的な運営と職員の休憩の確保を図る。
- ③長年の課題であった園での写真の販売の導入

2. 連携・協働について

(1) 職員との連携

- ①権限移譲と業務のスリム化と、各自の能力の向上
- ②支援の必要性に応じて役割の確立
- ③行事等における職員間の連携を図り、効率的な運営

(2) 保護者との連携

- ①実際に即した保護者会の形態への変更
- ②保護者会共催行事の際の連携

(3) 地域、他施設との連携

- ①地域と関わる行事の継続更なる地域との関係構築
- ②なでしこ園とのインクルージョン保育の推進
- ③センター・支部行事の和太鼓演奏参加

3. 安定経営について

(1) 施設の運営、管理

- ①新規職員確保への取り組みの強化
- ②園児確保と支援システムの新たな構築
- ③休憩時間の確保、コンプライアンス順守
- ④年長児の卒園アルバム見直し、写真販売

(2) リスク管理

- ①BCP、各種マニュアル更新、災害時の備え
- ②データ保管、管理、リスクマネジメント
- ③実践的な避難訓練、非常時の適切な行動
- ④熱中症対策の強化と保護者・職員に対する告知
- ⑤勤務シフトのスムーズな作成と運用

4. 施設強化事業

(1) 魅力的な職場づくり、離職防止、新職員採用

- ①スムーズな意思の疎通を図る

(2) 支援を必要とする園児の保育内容

- ①支援を必要とする園児のための新しいクラスの可能性

5. 施設整備計画

(1) 調理室の機器の更新

(2) 事務所の整理・整備・受付の整備

(3) 各所整備・改修

活 動 写 真



青空にたなびく鯉のぼり



花の日訪問



卒園10年思い出会



お泊り保育の一コマ



マラソン大会



プール開き前の職員救急法研修



運動会



発表会

1. スタッフ構成（2025年3月1日時点）

管理者	1名（兼）
相談支援専門員	5名

2. 2024年度の活動

(1) 概要

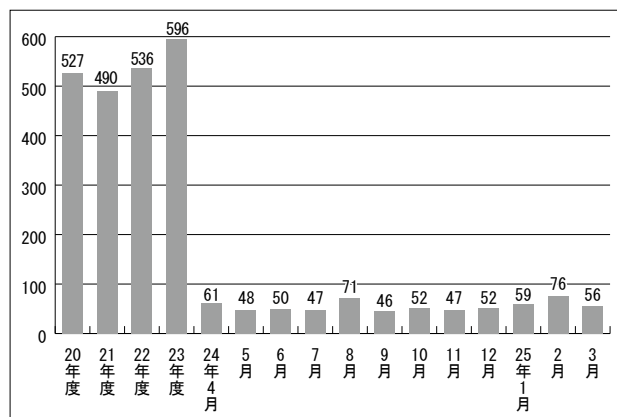
2024年度は熊本市委託事業（西区担当）が契約期間終了となったため、事業所を西区春日から南区内田に移転、計画相談事業のみの運用となった。南区へ移転したことから、年度当初より基幹相談支援センターや地域のささえりあへのご挨拶、地域の事業所、関係機関へ情報発信を行うなど顔の見える関係づくりを実施し、南区の相談支援事業所として新たなスタートを切ることができた。

報酬改定の年度であったが、地域の基幹相談支援センターとの連携、会議等への参加や困難ケースの受け入れなど体制を整えることができたため、報酬単価を下げることなく、維持することができた。

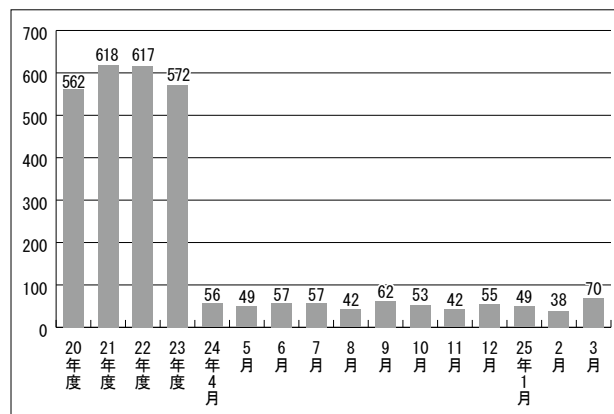
(2) 指定特定相談支援、指定障害児計画相談支援

①実績

(ア) 指定特定計画相談



(イ) 指定障害児計画相談



2024年度の特定計画相談の対応件数は648件で前年度の596件を上回った。障害児計画相談も630件で前年度の572件を上回った。計画的な新規利用者の受け入れを行った結果、年間の新規計画相談契約者数が45名となり、契約者数が特定計画相談235名、障害児計画相談196名、計431名となった。職員数がこれまでの9名から5名体制になったことから、担当利用者の計画的な引き継ぎを実施した。

①人材育成

職員の知識の向上・標準化のため、職員間での情報共有や内部研修における勉強会の開催、GSV（グループスーパービジョン）を活用した事例検討、相談支援のセルフチェックなどを行った。さらに資格取得を含めた外部研修や地域のネットワーク会議、熊本市自立支援協議会の各部会などに積極的に参加。また、行動障がい、医療的ケア、精神障がいの方への支援体制を図るための研修にも参加するなど質の向上に取り組んだ。

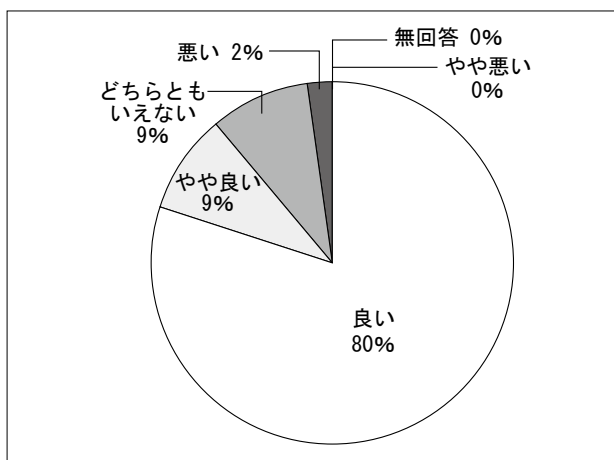
3. 苦情・要望

分類	内容	件数
ア	施設等サービスの改善	0
イ	排泄介助	0
ウ	食事	0
エ	職員の言動・態度	0
オ	入浴	0
カ	金銭・私物管理	0

キ	事件・事故	0
ク	契約締結	0
ケ	利用料	0
コ	利用者間の人間関係	0
サ	人権問題	0
シ	その他	0
	合 計	0

2024年度の苦情・要望は0件という結果だった。

4. 満足度調査結果



2024年度の満足度調査は契約者約424名うち100名の方に郵送とオンラインでアンケート調査を実施した。結果54名（回答率54%）の方から回答があった。2024年度は職員が5名体制となり、引継ぎが多

かったこともあり、ご利用者の方への影響もあったと考えられたが、大きな混乱もなく、総合評価では、8割を超える良い評価を得ることができた。自由記載では「私の理解度に合わせて説明していただいているので内容を把握しやすいです」「いつも個性に合わせた丁寧な対応をしていただいていると思います」や「子どもの就学についての情報がもう少し欲しいです」など、多くのご意見をいただくことができた。これらの貴重なご意見をもとに今後、相談業務に反映していく。

5. 今後の課題と展望

2025年度は相談支援の質の標準化としてマニュアル等の整備、内部での研修や勉強会の開催、資格取得を含めた外部研修への参加を行う。また、セルフチェックを実施して質の向上を図れるよう相談センター全体として取り組んでいく。

連携協働として福祉センター内部ではプロジェクトチーム等への会議参画、また、地域とは各種会議、自立支援協議会における各部会の参加を行い、地域、関係機関等とのつながりをさらに深め、地域に根ざした選ばれる相談支援事業所を目指す。

また契約利用者における丁寧な相談支援はもちろんのこと、積極的かつ計画的な新規利用者の確保を行いながら、収益の確保につなげていく。

活 動 写 真



職員研修における事例検討の様子

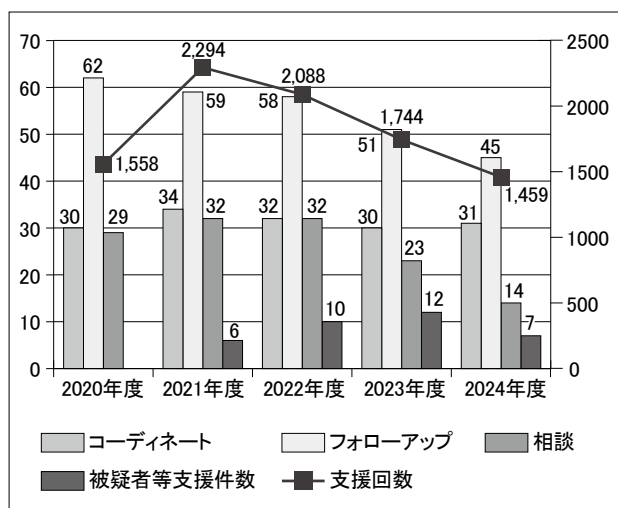
1. スタッフ構成（2025年3月1日時点）

管理者	1名（兼）
センター長	1名
相談員	6名

2. 2024年度の活動

(1) 支援業務

コーディネート業務	31名
フォローアップ業務	45名
相談支援業務	14名
被疑者等支援業務	7名
支援回数（訪問・電話）	1459回



コーディネート業務は、保護観察所からの依頼に基づき、高齢又は障がい者で帰住先がない受刑者の出所支援を行っている。新規支援開始者は19名で、九州内の刑務所・少年院入所者が17名、九州外が2名支援した。面接は刑務所等を訪問して行う直接面接を主としているが、遠方の場合などは保護観察所でテレビ面接を行っている。特に、熊本刑務所は長期受刑者が多く出所者が少ないことから、他県刑務所等に入所している受刑者で本県への帰住希望者を支援するケースが多い。そのため、他県の定着支援センターと連携した支援が重要になる。

フォローアップ業務は、コーディネート業務で支援した対象者が地域生活に円滑に移行できるよう、出所後に家庭訪問や行政手続きなど支援を行っている。

新規支援開始者は15名で、多くの方が一時帰住先として更生保護施設・自立準備ホームに入所となるため、施設入所中に生活保護申請や病院受診など支援を実施した。最終帰住先としてアパートでの単身生活を希望する者が多いが、それぞれの生活状況に応じて高齢者施設、障害者グループホーム、救護施設への入所を支援した。金銭浪費、飲酒、ギャンブル、地域からの孤立など様々な課題があり、生きづらさを抱えている対象者が多いため、福祉事務所、医療機関、ケアマネージャーなど地域の関係機関と連携した支援が重要になる。

相談支援業務は、既に出所している対象者で、家族や地域の関係機関から相談があった者について支援を行っている。新規支援開始者は6名で、保護観察所からの相談が3名、弁護士からの相談が2名、本人からの相談が1名であった。更生保護施設・自立準備ホームには社会福祉士など福祉専門職員の配置にバラつきがあることや、少ない職員体制で運営しているなど課題がある。今後は、更生保護施設・自立準備ホームなど受入施設との連携強化にも取り組むたい。

被疑者等支援業務は、保護観察所からの依頼に基づき、拘置所等に入所し、かつ釈放見込みがある方の支援を行っている。新規支援開始者は1名で、要介護状態であったため、高齢者施設に入所した。コーディネート業務とは異なり、釈放までの期間が短いことや、裁判でどのような判決が下されるか未定なことなどが特徴である。保護観察所、検察庁、弁護士会と課題の共有や支援事例の振り返りを行うため、協議会を1回開催した。

全体を通して、多くの者が生活困窮状態にあるため、生活保護申請支援を9件実施した。年間の支援件数（訪問・電話）は1459回であった。対象者は知的障がい・精神障がい・高齢者など様々で、幅広いジャンルへの対応が求められる。より良い支援を行うために、センター相談員のスキルアップと、地域の支援機関とのネットワーク構築がより一層重要になる。

(2) 運営業務

熊本県地域生活定着促進事業関係機関担当者連絡会議を11月12日ホテル熊本テルサにて開催した。特別講演として、医療法人横田会向陽台病院 副院長 武藤岳夫氏をお招きし、「薬物依存症の理解とその対応」について講演を実施した。また、大学の授業や地域で開催される研修会などへの講師派遣を10件、地域ネットワーク強化を図るために福祉事業所巡回開拓の訪問活動を6件実施した。

独居生活により孤独を感じている方や、対人経験がなく人とふれあう機会が少ない方のための居場所づくりを目的に、11月8日に第二回親睦会としてバーベキューを実施した。

個人情報保護の徹底を図るために、業務用パソコンのインターネット分離を導入し、個人情報を扱うパソコンに外部から不正アクセスできないように整備した。また、事務所内にカウンターを設置した。



(連絡会議:武藤副院長の講演)



(親睦会:バーベキュー)



(つながる会議:車座での意見交換会)

(3) 新しい取組み

刑務所と地域の支援機関のネットワークを構築するために、1月15日に「第1回矯正・地域つながる会議」を熊本刑務所で開催した。ケアマネージャー、医療機関、不動産会社、障害者施設など、様々な支援機関の方々に出席いただき、刑務所見学と意見交換を実施した。今後もこの会議を開催し、受刑者を地域で支える多くの支援機関を増やしていきたい。

3. 苦情・要望

2024年度の苦情・要望は0件という結果であった。

4. 満足度調査結果

支援対象者44名に郵送調査を行い、22名から回答を頂いた。皆様からのご意見を今後のセンター運営に活かしたい。

5. 今後の課題と展望

2025年度はいよいよ拘禁刑が導入される。115年ぶりに刑罰の種類が変更になり、刑務所ではこれまでの刑務作業が義務ではなくなり、受刑者の特性に応じた作業や指導を組み合わせる更生プログラムが導入される。これは刑務所だけでできるものではなく、地域の関係機関との連携がより一層重要となる。県内唯一の刑余者の相談支援事業所として、刑務所と地域をつなぐ役割を果たせるように、センター一丸となって取り組みたい。

2024年度(令和6年度)

済生会熊本福祉センター年報

<https://sk-fukushi.jp>

編集責任者 宮川 栄助(所長)

編集担当 事務局総務室

印刷 株式会社 河田印刷

